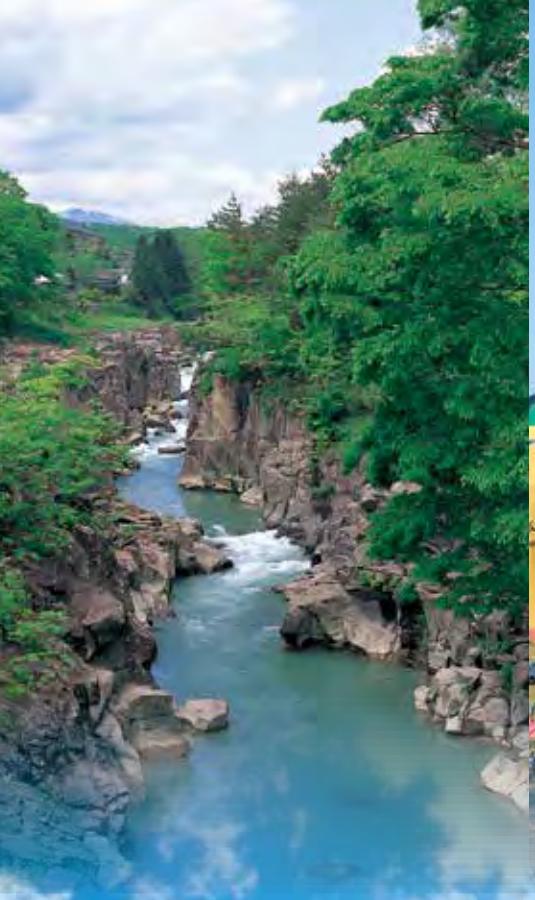


一関市観光振興計画

一関市

目 次

第1章 計画策定の趣旨

1 策定の目的 …… 2
2 計画の位置づけ …… 2
3 計画の期間 …… 2

第2章 本市の観光を取り巻く現状と課題

1 観光を取り巻く最近の情勢 …… 3
2 岩手県における観光の動向 …… 8
3 国および岩手県の観光施策 …… 9
4 一関市の観光の現状 …… 11
5 後期観光振興計画の実績と課題 …… 18

第3章 観光振興計画の基本方針

1 基本理念 …… 25
2 基本方針 …… 26
3 観光入込客数の目標 …… 27

第4章 観光振興戦略

1 平泉との連携強化による一関ブランドの発信 …… 28
2 観光資源の活用と情報提供の充実 …… 29
3 観光に関する受け入れ態勢の整備 …… 32
4 広域連携の推進 …… 34
5 インバウンド誘客の推進 …… 35
6 各地域の重点取り組み事項 …… 36

第5章 計画の推進

1 市民、観光関係団体等、DMOおよび行政の役割 …… 38

〈資料編〉

・観光資源一覧表（地域別）
・事業実施状況一覧（平成24年度～平成28年度）

一関市観光振興計画

第１章　計画策定の趣旨

１　策定の目的

観光は、人の交流や生活文化、地域の自然を来訪者に堪能していただくことはもちろんのこと、交流の中で地域文化の再発見や新たな魅力づくりに貢献し、それらは多くの産業に波及効果を及ぼす裾野の広い産業であり、活力ある地域づくりや地域経済の活性化による雇用創出につながるものと期待されています。

本市は、東北のほぼ中心に位置し、仙台市と盛岡市の中間にもあり、古くから交通の要衝として栄え、岩手県南、宮城県北エリアの中核都市として発展してきました。

広い市域の中には、西方に栗駒国定公園栗駒山や名勝・天然記念物厳美渓、東方には県立自然公園室根山や名勝・日本百景猊鼻渓、館ヶ森高原エリアなどの優れた観光資源に恵まれています。また、隣接した平泉町には、ユネスコ世界文化遺産に登録された中尊寺や毛越寺などの「平泉の文化遺産」があり、多くの観光客が訪れています。

さらには、古くから伝わる室根神社特別大祭や一関市・大東大原水かけ祭り、広く全国に発信している一関夏まつり、全国地ビールフェスティバルin一関、かわさき夏まつり花火大会、藤沢野焼祭、一関・平泉バルーンフェスティバル、全国ご当地もちサミットin一関のほか、せんまや夜市、唐梅館絵巻など数多くのイベントが開催されています。

このように本市および周辺には、多彩な観光資源がありますが、これらを現下の観光動向を踏まえながら的確に発信し、交流人口の増加を図り、本市の観光はもとより地域産業の振興に資するための指針として本計画を策定するものです。

２　計画の位置づけ

本計画は、平成28年度から平成37年度までの10年間のまちづくりの将来像を定めた「一関市総合計画基本構想」に掲げる「みつけよう　育てよう　郷土の宝　いのち輝く一関」の実現に向け、この基本構想に基づき、平成28年度から平成32年度までのまちづくりの方向性を定めた「一関市総合計画前期基本計画」を上位計画とする観光部門計画として、本市観光振興の方向性とその施策を明らかにするものです。

３　計画の期間

本計画は、平成29年度から平成33年度までの５年間を計画期間とします。

第２章　本市の観光を取り巻く現状と課題

１　観光を取り巻く最近の情勢

観光に影響を及ぼす事案としては、本市は二度にわたる大きな災害（平成20年６月の岩手・宮城内陸地震および平成23年３月の東日本大震災）に見舞われ、一部観光施設が被災したほか、観光入込客数も大幅な減少が続くなど、観光面でも本市に甚大な影響を与えました。

また、国内においては、訪日外国人旅行者数が年々に増加し、平成27年には過去最高を記録したものの、東北の観光は風評被害等の影響により、全国的なインバウンド急増の流れから大きく遅れ、厳しい状況が続いています。

そこで、国では平成28年を「東北観光復興元年」と定め、新たな交付金の創設など観光復興関連予算を大幅に増額し、東北が連携したインバウンド拡大への取組に支援しており、平成32年に東北への外国人宿泊者数を150万人泊に押し上げるという目標が示されています。

一方において、東北地域全体が震災復興の途上にあるなかで、平成23年６月に平泉がユネスコ世界文化遺産に登録されたことは、地域の復興に向けた希望の象徴として弾みをつけるものとなり、登録されてから５周年を迎えた平成28年度にはさまざまな催しが行われ、世界中から多くの観光客を集めており、成長する世界の旅行市場において、この力強いインバウンド需要に対応することが重要となっています。

また、昨今、情報通信技術の著しい進展と、スマートフォンの一般化に伴うフェイスブック、ツイッター等のSNSによる多彩な情報発信ツールの普及は、観光情報の提供のあり方に新たな対応を必要としています。

このほか、平成28年は、希望郷いわて国体、希望郷いわて大会も開催されるなど、観光客の受け入れ態勢の充実とともに、地域の市民全体でおもてなしをするという姿勢も求められてきています。

これらに加え、国際リニアコライダー候補地としての取組や資源エネルギー循環型のまちづくりに向けた取組、さらには、本市と平泉町において、観光地経営の視点に立った観光地域づくりを進めるための「一関・平泉地域連携DMO（仮称）」の設立を目指して検討を進めているなど、本市の観光を取り巻く状況は大きく変化しています。

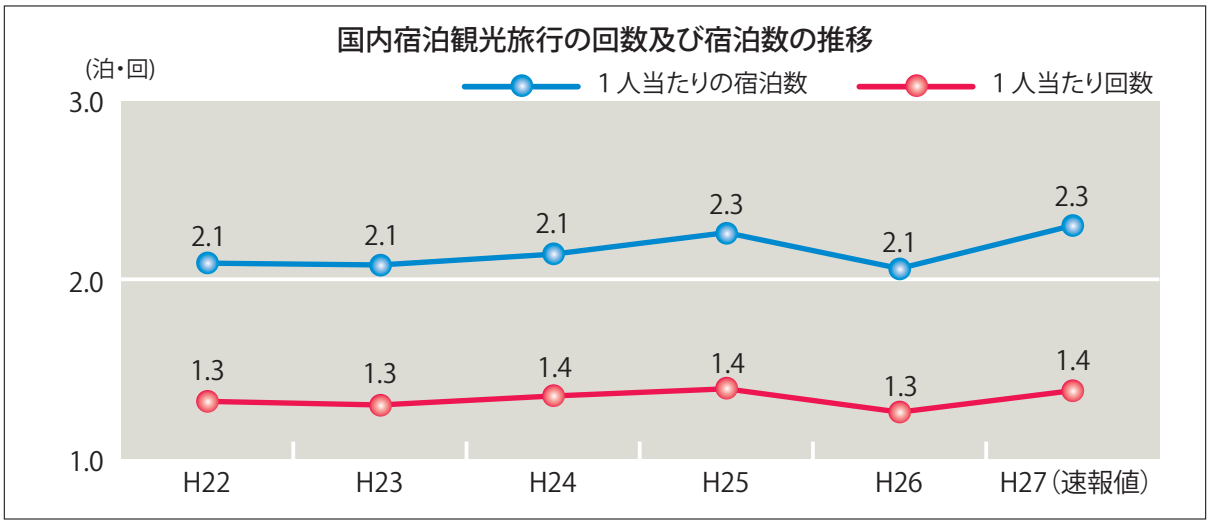
（注）SNSとは、Social Networking Serviceの略で、人と人とのつながりを促進、支援する、コミュニティ型のWebサイトおよびネットサービスのことをいう。

（注）DMOとは、Destination Management/Marketing Organizationの略称であり、観光地域づくりを持続的戦略的に推進し、牽引する専門性の高い組織、機能のことをいう。

（注）インバウンドとは、海外から日本を訪れる旅行、旅行者のこと。訪日外国人旅行、訪日外国人旅行者をいう。

１－１　国民の国内宿泊観光旅行の動向

2015年（平成27年）においては、日本人の国民１人当たりの国内宿泊観光旅行の回数は1.4回（前年比9.8%増）、国民１人当たりの国内宿泊観光旅行の宿泊数は2.3泊（同12.3%増）と推計されます。国民１人当たりの国内宿泊観光旅行の回数、国民１人当たりの国内宿泊観光旅行の宿泊数ともに、2014年（平成26年）は同年４月の消費税率引上げの影響もあり、減少に転じましたが、2015年（平成27年）は前年の落ち込みの反動もあり、再び増加に転じています。



資料：官公庁「旅行・観光消費動向調査」
注１：2015年（平成27年）は速報値。なお、数値の出典である「旅行・観光消費動向調査」は速報値が確報値より大きい数値となる傾向にあるため、2015年（平成27年）の数値はあくまでも参考値として算出したものである。

１－２　宿泊観光の主な目的

公益社団法人日本観光振興協会「平成27年度版観光の実態と志向」によると、宿泊観光の旅先での行動（複数回答）は多い順に、「温泉を楽しむ」（31.3%）、「食を楽しむ」（30.8%）、「自然の風景や季節の花見を楽しむ」（29.4%）、「名所・旧跡をたどる」（19.1%）、「神仏詣」（12.2%）、「ドライブ」（11.7%）、「ショッピング」（11.1%）の順となっています。

旅行先での行動上位３項目について多い層をみると、「温泉を楽しむ」「自然の風景や季節の花見」「名所・旧跡をみる」は、若年層より中高年齢層に多く、「食を楽しむ」は女性の若年層でも高い割合となっています。

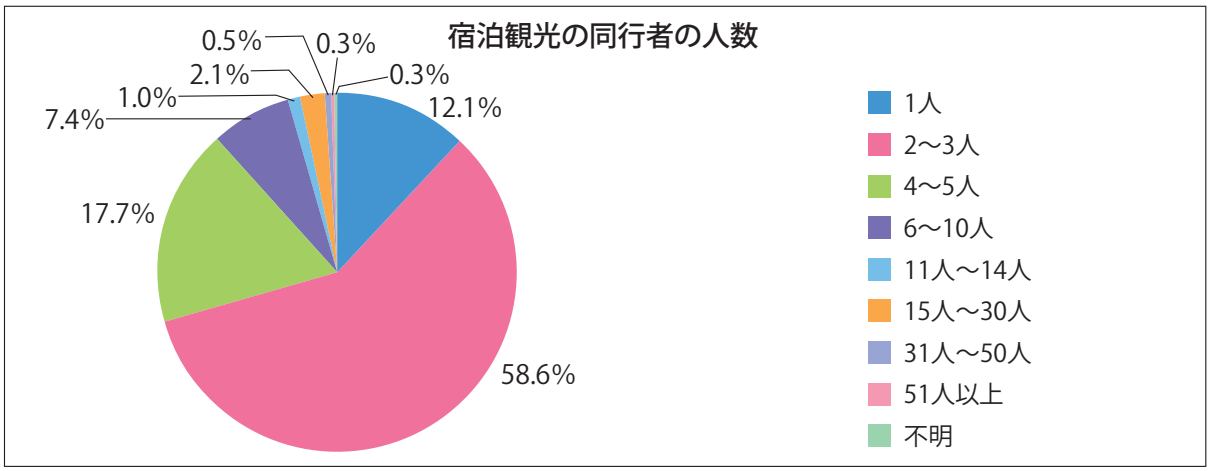
資料：「平成27年度版観光の実態と志向」による

須川高原温泉

１－３　宿泊観光旅行の同行者

旅行の同行者についての傾向は、「家族」「友人・知人」「家族と友人・知人」と行った小グループ旅行が８割以上を占めています。対して、「職場・学校の団体」「地域などの団体」は合わせて2.5％となっています。

一緒に宿泊観光をした人数は、「２～３人」（58.6％）と「４～５人」（17.7％）の小グループが３分の２を占めており、全体の平均同行者人数は3.8人となっており、平成23年度の7.1人と比較しても、さらに小人数化の傾向にあるといえます。



資料：「平成27年度版観光の実態と志向」による

１－４　宿泊観光の利用交通機関

宿泊観光旅行で利用したすべての交通機関（複数回答）の回答には、「自家用車」が最も多く45.8％、次に「ＪＲ鉄道」（31.3％）、「飛行機」（13.6％）の順となっています。

これを主要な交通機関１つに限定しても、トップ「自家用車」（45.0％）、２位「ＪＲ鉄道」（24.9％）と３位「飛行機」（10.7％）の順位に変化は見られないところです。

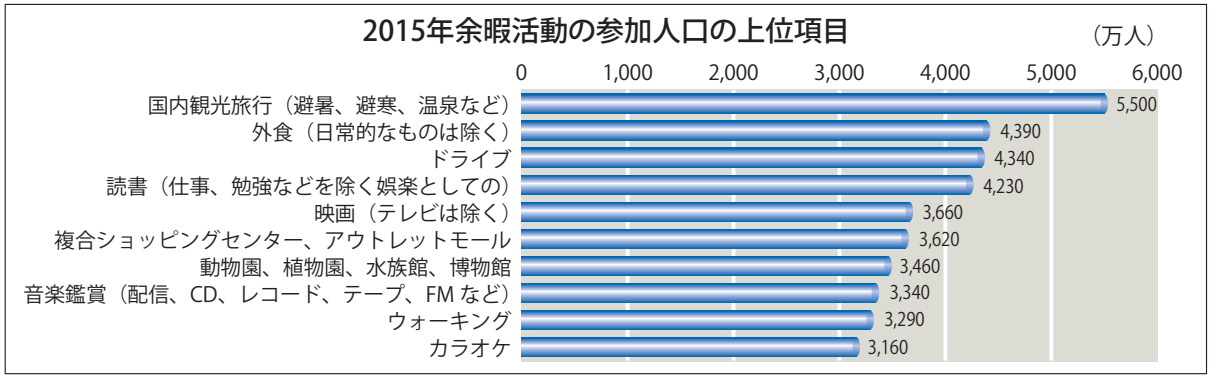
しかしながら、平成23年度と比較すると、１位の「自家用車」の割合が減り、２位の「ＪＲ鉄道」の割合が増えたほか、３位が「貸切バス」から「飛行機」に変わっています。

資料：「平成27年度版観光の実態と志向」による

一関インターチェンジ

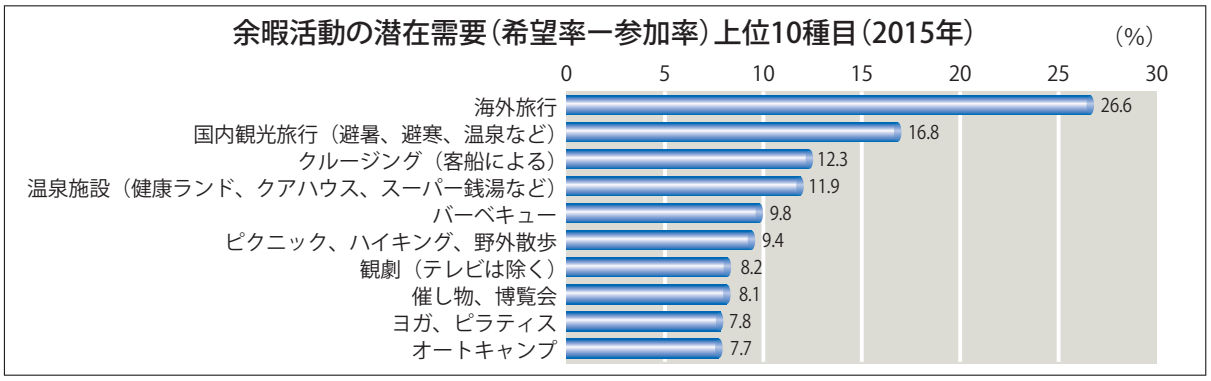
１－５　余暇活動の動向

公益財団法人日本生産性本部の「レジャー白書2016」によると、2015年（平成27年）の国民の余暇活動の種目として参加人口が高かったものは、第１位が「国内観光旅行」、第２位が「外食」、第３位が「ドライブ」で、以下、「読書」、「映画」の順となっており、身近な余暇の過ごし方が上位に入っている中で、国内観光旅行が５年連続で第１位となっていることは、旅行に対する意欲は依然として高いことがうかがえます。



資料：公益財団法人日本生産性本部『レジャー白書2016』による

また、旅行に対する潜在需要として今後実現したい（希望をもっているがまだ実現していない）活動分野をみてみると、１位は、「海外旅行」、２位は「国内観光旅行」、３位は「クルージング」で、以下、「温泉施設」、「バーベキュー」、「ピクニック、ハイキング、野外散歩」、「観劇」、「催し物、博覧会」となっており、旅行に関連した非日常的なレジャーへの関心の高さがうかがえます。



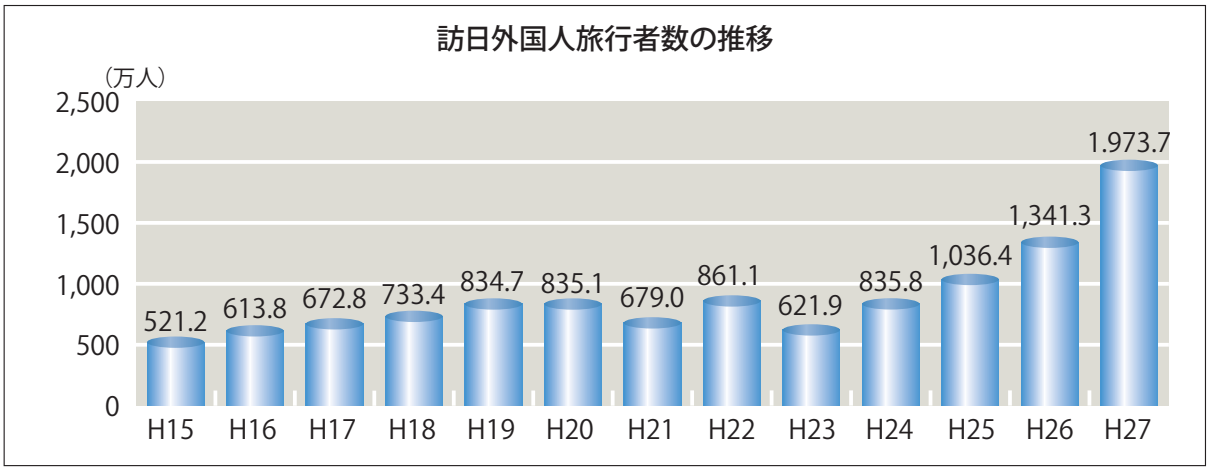
資料：公益財団法人日本生産性本部『レジャー白書2016』による

１－６　外国人の訪日旅行の動向

2015年（平成27年）の訪日外国人旅行者数は、過去最高であった2014年（平成26年）の1,341万人をさらに上回り、1,974万人（対前年比47.1％増）となり、３年連続で過去最高を更新したと同時に、統計を取り始めた1964年（昭和39年）以降で最大の伸び率を記録しました。

このような状況の下で、主要20市場のうち、ロシアを除く19市場が年間での過去最高を記録するなど、多くの国・地域からの年間訪日旅行者数が過去最高を記録しました。

地域（州）別にみると、アジアが1,637万人で全体の82.9％を占め、次いで北アメリカが126万人（6.4％）、ヨーロッパが82万人（4.1％）、オセアニアが38万人（1.9％）の順となっています。国・地域別に見ると、中国が499万人、以下、韓国400万人、台湾368万人、香港152万人、アメリカ103万人、タイ80万人の順となっています。



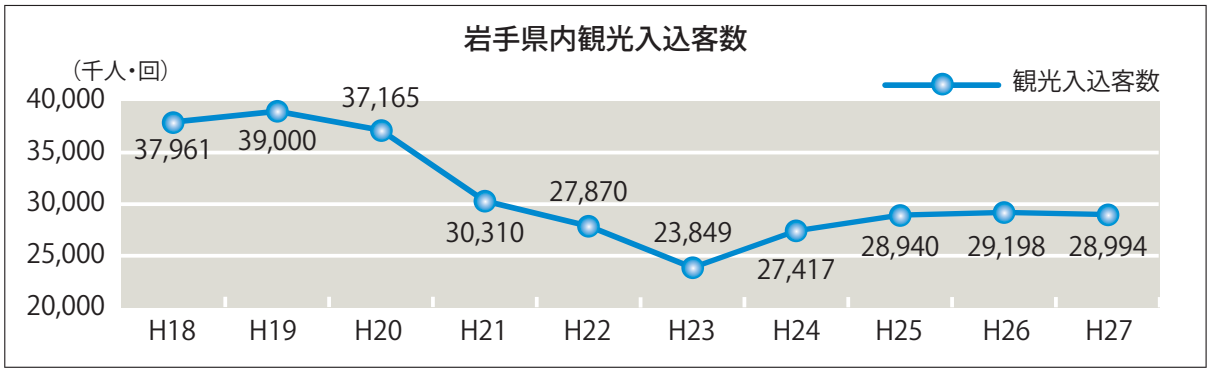
資料：「平成28年度版観光白書」による

「食と農の景勝地」ファムトリップの参加者

「食と農の景勝地」ファムトリップ

２　岩手県における観光の動向

岩手県における平成27年の観光入込客数は延べ人数約2,899万人回となり、平成25年度以降横ばいとなっています。



資料：「平成18～27年度版岩手県観光統計概要」による
※平成22年度より国の共通基準を導入し、平成22年度から平成26年度までは年度集計となっています。平成27年より暦年集計となっています。

２－１　観光レクリエーション客の入込状況

岩手県を訪れた平成27年の観光目的の観光入込客数を発地別にみると、県内客55.5%、県外客44.5%であり、県内客が県外客を上回っています。日帰宿泊別では、日帰客67.5%、宿泊客32.5%であり、日帰客が７割弱占めています。

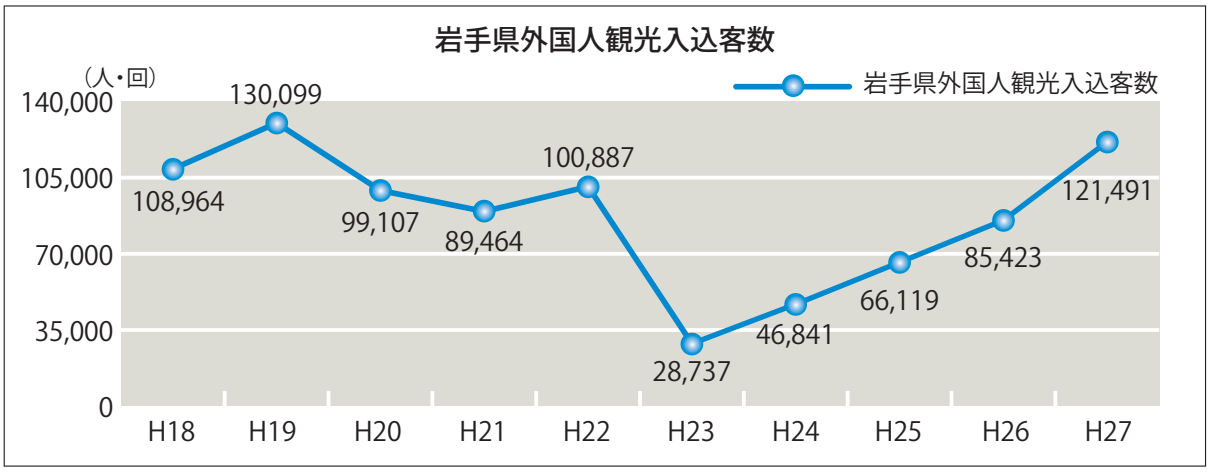
２－２　教育旅行客の入込状況

岩手県を訪れた平成27年の県外教育旅行客の内訳は、学校数が延べ3,100校、児童生徒数が217,445人回であり、学校数は前年比で２校増、児童生徒数は前年比で3,191人回増となっています。発地別にみると東北地方がもっとも多く、次いで北海道地方、関東地方となっています。その内訳は中学生が多く、次いで高校生、小学生の順となっています。

２－３　外国人観光客の入込状況

岩手県を訪れた平成27年の外国人観光客の入込客数は、121,491人回となり、前年比42.2%の増と大幅に増加しています。東日本大震災津波発災前（平成22年）の観光入込客数を20,604人回上回り、20.4%の増加となっています。

国・地域別に見ると、台湾が71,156人回（58.6%）と最も多く、以下、中国7,640人回、アメリカ6,877人回、韓国5,426人回、香港4,563人回、タイ3,831人回、オーストラリア2,246人回の順となっています。



資料：「平成27年いわての観光統計」による
※外国人観光客の統計は岩手県の独自集計のため、暦年集計となっています。

３　国および岩手県の観光施策

３－１　国の観光政策

（１）観光立国推進基本計画の策定

我が国の観光を取り巻く状況が著しく変化したことに伴い、観光基本法が43年ぶりに改正され、新たに観光立国推進基本法が平成19年１月より施行されています。同基本法に基づき、平成19年６月には観光立国推進基本計画が策定され、また、平成20年10月には観光庁が設置され、さらに近年の情勢の変化を踏まえ、平成29年３月には、①国民経済の発展、②国際相互理解の増進、③国民生活の安定向上、④災害・事故等のリスクへの備え（安全・安心な観光の実現）の基本方針のもと、政府を挙げて観光立国の実現に向けた施策を推進するため、平成29年度から32年度までを計画期間とする、新たな観光立国推進基本計画が策定されています。

（２）政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策

同基本計画では、政府が主導的な役割を果たすべき主な施策として、①国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成、②観光産業の国際競争力の強化および観光の振興に寄与する人材の育成、③国際観光の振興、④観光旅行の促進のための環境の整備が挙げられています。

また、観光立国の推進に関する目標値として、①国内旅行消費額21兆円、②訪日外国人旅行者数4,000万人、③訪日外国人旅行消費額８兆円、④訪日外国人リピーター数2,400万人、⑤訪日外国人の地方部における延べ宿泊者数7,000万人泊、⑥アジア主要国における国際会議の開催件数に占める割合３割以上、⑦日本人の海外旅行者数2,000万人の７項目が設定されています。

３－２　岩手県の観光施策

（１）みちのく岩手観光立県第２期基本計画

平成26年３月に、みちのく岩手観光立県基本条例に基づき、平成26年度から平成30年度までの５年間を計画期間として策定されています。

観光入込客数、宿泊客数、外国人宿泊客数について目標値を設定するとともに、計画の目標達成に向けて、県、市町村、観光に関係する団体、観光事業者、県民の連携のもと進めるべき、以下の５つの取り組みが提示されています。

みちのく岩手観光立県第２期基本計画における観光振興に関する施策

１．地域資源を生かした魅力的な観光地づくり
２．観光人材の育成や二次交通などの受入態勢の整備
３．効果的な情報発信と誘客活動
４．国際観光の振興
５．三陸沿岸観光の再構築

（２）　いわて県民計画
第３期アクションプラン
（県南広域振興圏）

いわて県民計画（計画期間：平成21年度～平成30年度）の第３期アクションプラン地域編（計画期間：平成27年度～平成30年度）では、県南広域圏の重点施策として、平泉世界遺産をはじめ多彩な資源を生かした周遊滞在型観光の推進が挙げられており、基本方向として、おもてなし向上を図る人材育成、二次交通の確保と併せて、外国人観光客を誘致するため、関係機関と連携した情報発信やＩＣＴ環境の整備などの受入態勢整備の取組、いわて花巻空港と台湾を結ぶ国際便を活用し、岩手と台湾の交流人口の拡大につながる取組を行うことにしています。

（注）ICTとは、Information and Communication Technologyの略で、コンピュータやインターネットに関連する情報通信技術をいう。

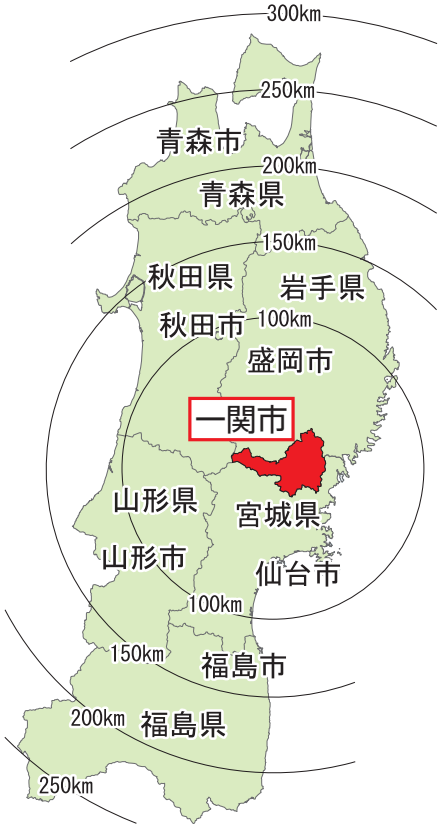
いわて花巻空港

４　一関市の観光の現状

４－１　一関市のすがたと観光資源

（１）地勢

本市は、岩手県の南端に位置し、南は宮城県、西は秋田県と接しています。特に宮城県北地域との結びつきは強く、北上川を介しての交流も古くから行われてきました。首都圏からの距離は約450キロメートル、新幹線を利用すると東京ー一ノ関間が最速で約１時間54分と日帰り交流圏に入ります。地理的にも東北地方のほぼ中央に位置し、仙台市と盛岡市の中間地点にあります。東北縦貫自動車道と東北新幹線の高速交通網も備わり、他地域からアクセスの良い恵まれた立地条件にあります。市の面積は、1,256.42平方キロメートルとなっており、東西は約63キロメートル、南北は約46キロメートルの広がりがあります。



（２）自然

本市は、四季折々に多彩な表情を見せる豊かな自然に恵まれて、市の西方には、奥羽山脈の名峰栗駒山（須川岳）と、市の東方には、緩やかな丘陵地が広がる北上高地の独立峰となっている室根山などの山々がそびえています。

北上平野の南端部にあたる市の中央部には標高の低い平地が広がり、東北一の大河北上川が緩やかに流れています。北上川の支流は西から磐井川、金流川、東からは砂鉄川、千厩川などが流れ込み、流域に豊かな恵みをもたらしています。磐井川の中流域には渓谷美を誇る厳美渓、砂鉄川には石灰岩地帯を深く刻み込んだ猊鼻渓があり、それぞれ独特の景観を呈し多くの観光客が訪れる名所となっています。特にも厳美渓から栗駒山（須川岳）に向かう国道342号沿いには一関温泉郷として多くの温泉が点在しています。

また、市内には色とりどりの花が地域を美しく飾り、人々の心を和ませます。春は釣山公園や石蔵山の桜、磐井川の菜の花、猊鼻渓の藤、室根山のツツジ、館ヶ森高原のチューリップなどが咲き誇り、花と泉の公園のぼたん園やベゴニア館は花のテーマパークとして市民に親しまれ、みちのくあじさい園では山一面のあじさいが多くの人々に安らぎを与えています。

各地域でも、住民の手による花壇づくりが盛んに行われ、春から秋まで道行く人々を楽し

ませています。

気仙沼の豊穣な海の恵みを支えてきた大川の源流部となっている室根の矢越山では、山から川、そして海へと自然のつながりを重視した環境保全活動「森は海の恋人」を合言葉にした植林活動が続けられています。

（３）歴史

本市の歴史は古く、旧石器時代から人が住み始めた形跡が見られ、縄文時代や弥生時代の遺跡も各地にあります。平安時代には安倍氏、藤原氏が独自の文化を築き上げ、藤原三代により平泉文化が花開いた時代にゆかりのある遺跡が骨寺村荘園遺跡をはじめとして各地に残されています。また、日本刀の起源の一つとされる舞草鍛冶が起こり、平安後期の奥州藤原文化の頃が最盛期であったとされています。

鎌倉時代に入り、葛西氏がおよそ400年間統治した時代を経て、伊達氏、田村氏の治世下に置かれました。

明治の近代化以降の地域の成り立ちは、明治の廃藩置県を経て、明治９年に岩手県に編入されました。その後、近隣の町村との幾度の合併を重ね、平成23年９月に藤沢町を編入合併し、現在の本市の姿になっています。

（４）文化

本市には、世界遺産「平泉」の関連資産として拡張登録を目指している国史跡骨寺村荘園遺跡があるほか、平泉文化にゆかりのある史跡、伝承が各地に残されています。

また歴代の偉人として、一関藩医の建部清庵（『民間備荒録』）、医学や蘭学の大槻玄沢（『重訂解体新書』、『蘭学階梯』）・和魂洋才の儒学者大槻磐渓（『献芹微衷』、『近古史談』）・言語学の大槻文彦（『言海』）の大槻三賢人、和算の千葉胤秀（『算法新書』）、刑法の芦東山（『無刑録』）など、これまで多くの優れた人材が輩出されています。

さらには、古くから伝承されてきた南部神楽をはじめとする伝統芸能や伝統行事が数多く残っているとともに、奇祭として知られる350年以上続く一関市･大東大原水かけ祭りや国重要無形民俗文化財の指定を受けた室根神社特別大祭など各地域で独特な祭りが開かれています。

その多彩さでは日本一といわれている一関地方のもち料理は、年中行事、農作業の節目節目などに供されるほか、冠婚葬祭時の「もち本膳」はこの地方独特のものとなっており、食文化においては当地方を代表する特徴的なものとなっています。

※（　）内はそれぞれ主要著書・訳書

（５）人口

本市は、12万746人（平成29年３月１日現在）の人口を擁し、県内では盛岡市に次いで第２位の人口規模となっています。過去の人口の推移をみると、昭和30年頃をピークとして減少

に転じています。

（６）産業

①　農業

市内の総農家数は、11,352戸で、そのうち兼業農家が9,619戸と大多数を占めています。作付（栽培）面積は約77万1千アールで、その内訳をみてみると、「稲」が60万1千アールと最も多く、「果樹」、「野菜類」、「豆類」、「麦類」と続きます。自然の恵みと地域特性を活かした農産物のブランド確立による農業振興を図り、社会変化に対応できる担い手の育成も進めています。

資料：「農業センサス平成27年２月１日現在)」による

②　工業

市内には従業員4人以上の製造業事業所数は、253事業所で、従業員数は、約10,795人となっています。業種別事業所数（産業中分類別）は、「食料品」が最も多く（39事業所)、以下、「繊維工業」、「電子部品・デバイス・電子回路」と続きます。工業団地など市内への企業誘致に努めるほか、技術開発・共同研究・高品質化への取組支援や、農商工連携の促進を図っています。

資料：「工業統計調査（平成26年12月31日現在)」による

③　商業

市内の商店数は、卸売業・小売業1,261事業所で、従業員数は、約7,300名となっています。商店数の内訳（産業中分類別）は、「その他小売業」が最も多く（434事業所)、「飲食料品小売業」、「機械器具小売業」、「織物・衣服・身の回り品小売業」と続きます。年間商品販売額では、約1,800億円となっています。商店街イベントを支援し、賑わいの創出に努めるほか、中小企業振興資金への利子補給等により個店を支援しています。

資料：「商業統計調査（平成26年７月１日現在)」による

（７）　交通機関

①　鉄道

市内には、ＪＲ東北新幹線、東北本線、大船渡線の３路線が通じており、一ノ関駅が各路線の拠点駅となっています。平泉町や仙台市方面に向かう路線として利用される東北本線は市内に５か所の駅が設置され、また、気仙沼市方面に向かう大船渡線は、猊鼻渓、千厩といった観光地の利用駅となっており、市内に13駅が設置されています。

②　バス

高速バスは、釜石～気仙沼～一関～池袋、一関～古川～仙台～東京～東京ディズニー

リゾート、大船渡～気仙沼～一関～仙台、室根～千厩～摺沢～水沢～盛岡、平泉～一関～仙台の路線で運行されています。

路線バスは、民間および市営によるネットワークでサービス提供がされていますが、利用者の減少から路線の廃止や運行本数は削減の方向となっています。

③　道路交通

本市は、高速道路をはじめ、国道、主要地方道や県道などにより骨格的な道路ネットワークが形成されています。東北縦貫自動車道は、本市の南北を貫き、市域内の一関インターチェンジのほか、若柳金成インターチェンジ、平泉前沢インターチェンジが高速道路へのアクセスとして利用されています。また、三陸縦貫自動車道は、登米東和インターチェンジが沿岸地域へのアクセスとして利用されています。

国道は、市の南北を貫く国道４号、宮城県気仙沼市と結ぶ284号、秋田県横手市から厳美町、花泉町を経由し宮城県登米市に至る342号、陸前高田市から大東町、東山町を経由し奥州市に至る343号、宮城県仙台市から藤沢町を経由し気仙沼市に至る346号、盛岡市から大東町、千厩町、藤沢町を縦断し気仙沼市に至る456号、本市の国道４号から宮城県の西部を縦断し宮城県白石市に至る457号があります。県道は、一関大東線など主要地方道が９路線、一般県道が30路線となっています。

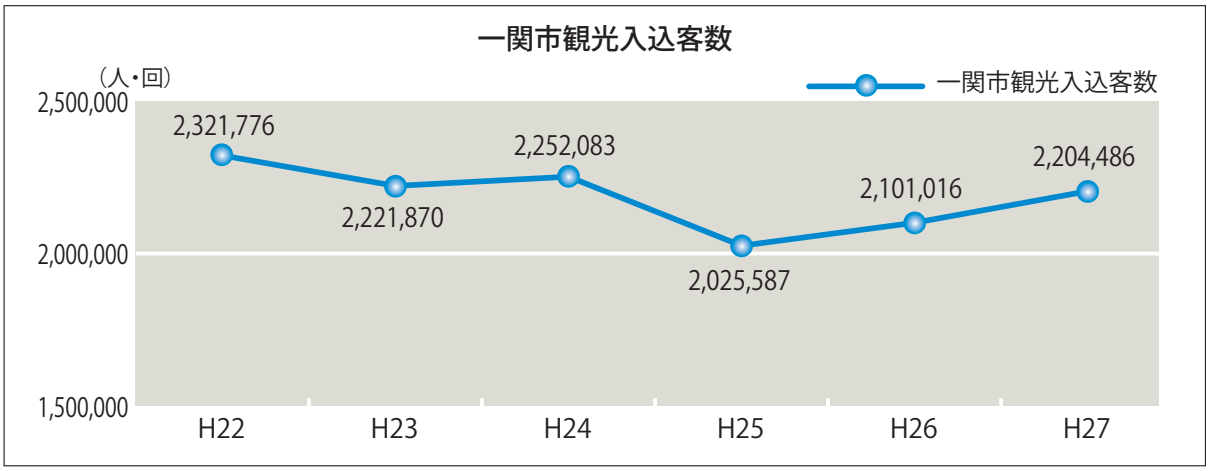
４－２　本市の観光の現状

（１）観光入込客数の推移

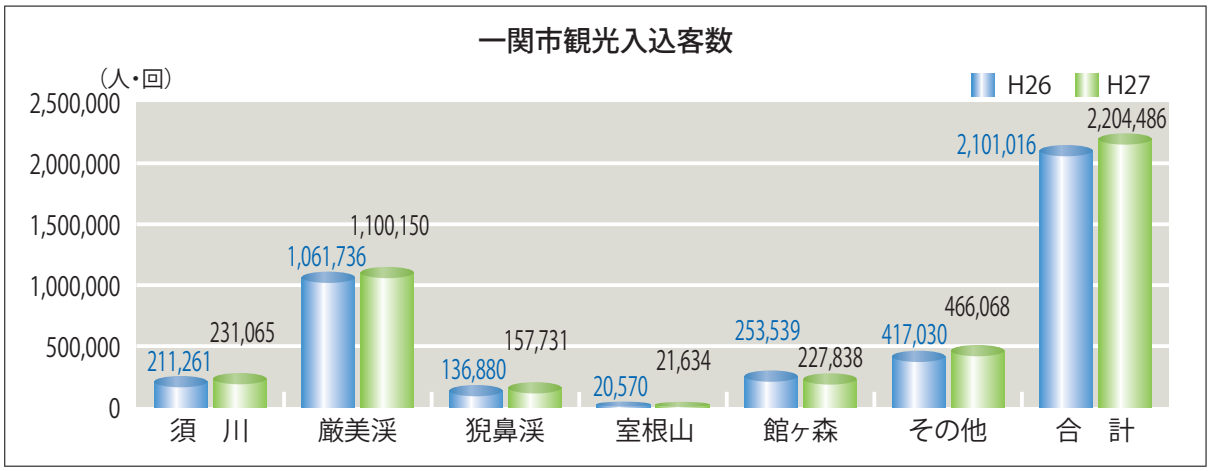
平成27年度の観光入込客数は、2, 204, 486人回であり、対前年比4. 9％の増となっています。

連休が好天に恵まれるなど各主要観光地における観光入込客数の増減が微増となったほか、イベント等の集客増により微増となったものと考えられます。

しかしながら、東日本大震災前の観光入込客数にはまだ回復していない状況にあります。

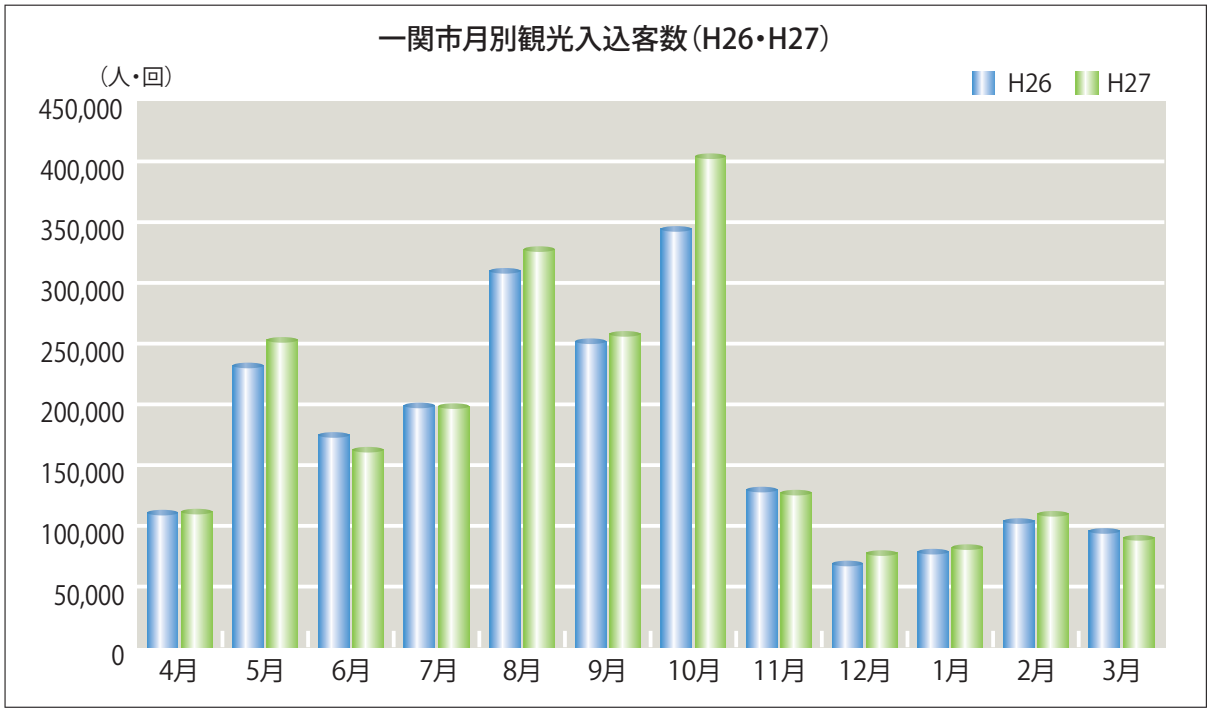


資料：一関市商業観光課調べによる



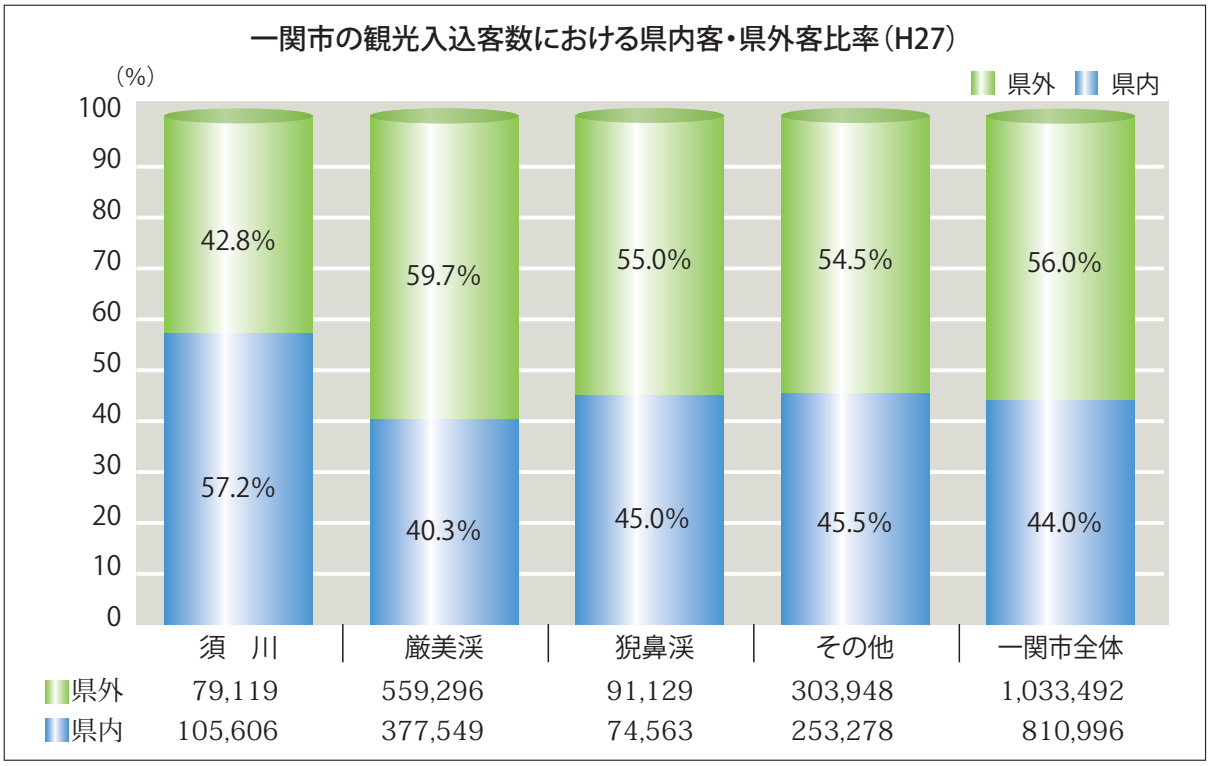
資料：一関市商業観光課調べによる

月別観光入込客数をみると、５月から10月までが多客期であり、冬期間の観光入込客数は少ない状況にあります。



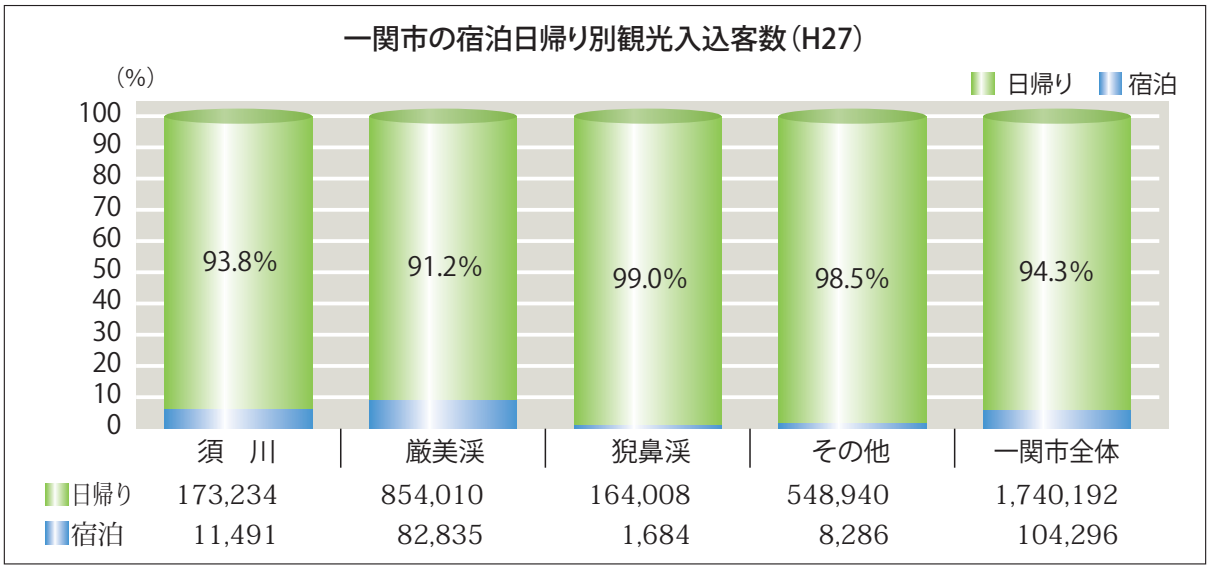
資料：一関市商業観光課調べによる

観光入込客数の県内・県外客比率は、本市全体で県内客44.0%、県外客56.0%であり、県外客が県内客を上回っています。



資料：一関市商業観光課調べによる

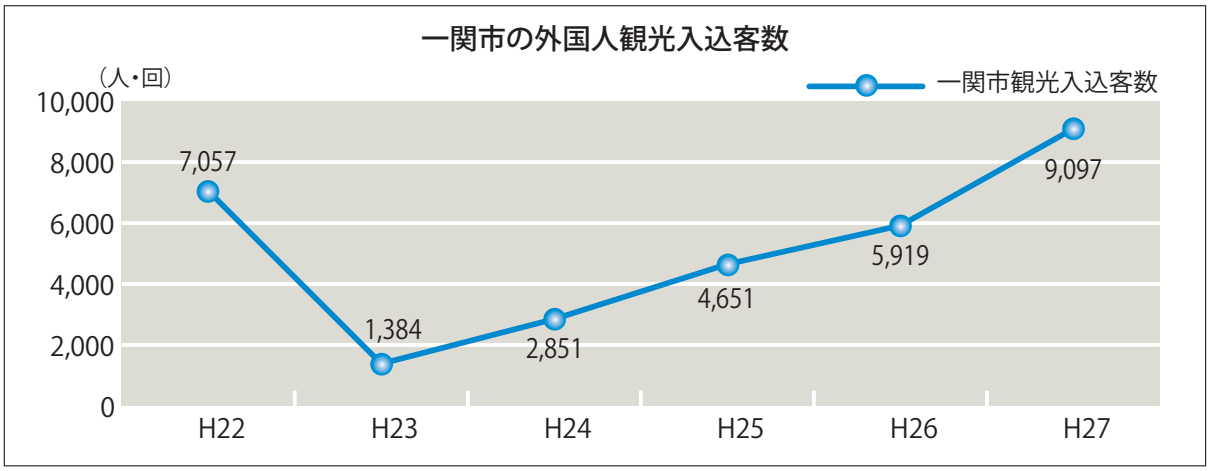
本市全体における宿泊客数は、104,296人となっています。これは観光入込客数の5.7%であり、日帰り客数の割合が非常に高くなっています。



資料：一関市商業観光課調べによる

本市全体における外国人観光入込客数は、平成27年度において9,097人であり、観光客入込客全体の約0.4%となっています。東日本大震災前の水準を超えて、回復傾向にあるものの、国のインバウンド観光の推進との連携を図りながら、更なる誘客推進に努めていく必要があります。

なお、平成27年度における外国人観光入込客数の約80％が台湾からの誘客となっており、以下、タイからの誘客が約７％、中国からの誘客が約３％となっていることからも、特にアジア圏域からの外国人観光客の入込が主となっている状況にあります。



資料：一関市商業観光課調べによる

（２）観光振興の体制

本市の観光振興には、一般社団法人一関観光協会や各地域の観光協会、一関商工会議所などの観光振興を推進する団体のほか、広域で観光振興を図る団体として組織した協議会などや行政が相互に連携を図りながら推進にあたっています。

１　市内の組織

- 一般社団法人一関観光協会
- 花泉町観光協会
- 大東観光物産協議会
- 千厩町観光協会
- 東山町観光協会
- 室根山観光協会
- 藤沢町観光協会
- 一関商工会議所
- 一関温泉郷協議会
- 一関もち食推進会議
- いわいの里ガイドの会
- 観光交流ネット千厩
- 蔵サポーターの会

市内観光関係団体による会議

世界遺産連携推進実行委員会総会

・本寺地区地域づくり推進協議会
・特定非営利活動法人須川の自然を考える会
・いちのせきニューツーリズム協議会
・一関地方物産振興協会
等

２　広域の組織
・世界遺産連携推進実行委員会
（一関市、奥州市、平泉町の２市１町、岩手県県南広域振興局、各市町商工会議所、商工会、観光協会で構成）
・ゆっくりひとめぐり栗駒山麓連絡会議
（一関市、栗原市、湯沢市、東成瀬村で構成）
・イチ、ニのサン！元気な東北発信事業
（一関市、二戸市、三沢市と一関市、二本松市、三春町で構成）
・伊達な広域観光推進協議会
（一関市、仙台市、気仙沼市、松島町、最上町など６市４町の行政、商工関係団体、観光関係団体で構成）
等

５　後期観光振興計画の実績と課題

平成24年度から平成28年度までを計画期間とする後期観光振興計画では、「恵まれた自然と悠久の歴史が育むいやしの里　いちのせき」を基本理念に掲げ、住む人、訪れる人双方がふれあいながら、市民一人ひとりが観光の担い手として心のこもったおもてなしに努めることを目指し、４つの項目を基本方針として観光振興に取り組んだところであり、主な実績と課題は次のとおりです。

（１）平泉との連携強化による一関ブランドの発信

①　平泉と主要観光地をつなぐルートを活かした一関ブランドの発信

世界遺産「平泉」の観光資源の一つである毛越寺、中尊寺と本市の主要観光資源である厳美渓、猊鼻渓をつないだ観光モデルルートを設定し、誘客と観光客の利便性に努めています。

また、観光客の更なる利便性を努めるため、二次交通対策として平泉・猊鼻渓間をつなぐバスルートを設定し、利用促進を図っています。

②　骨寺村荘園遺跡の活用

世界遺産「平泉」の関連資産として拡張登録を目指す骨寺村荘園遺跡の観光資源や平

泉に由来する伝承など、平泉とのゆかりを観光資源として活用しています。

平成23年７月に骨寺村荘園遺跡の情報発信や来訪者と地域住民との交流促進を目的とした骨寺村荘園交流館（愛称：若神子亭）を開館、平成24年度には同遺跡をわかりやすく解説する展示棟施設を設置し、その歴史的価値を伝えています。

また、農家民泊の実施や体験イベントの開催、平泉と関連した伝統行事のＰＲなど地域の特色を活かしながら観光客の誘致に努めました。

今後も当該施設の利用の促進を図るとともに、更なる同遺跡を活用した事業の充実や展開を図っていく必要があります。

③　平泉とのゆかりを活かした観光振興

史跡として今に伝えられている平泉に由来する言い伝えや伝承等について情報発信を行い、観光資源として活用を図り、観光客の誘致に努めました。

平泉と本市におけるゆかりについては、情報発信量が不足していることから、今後も引き続き情報発信を行っていく必要があります。

また、本市は世界遺産「平泉」の玄関口であり、本市および平泉への誘客の重要な役割を担っていることから、今後も引き続き平泉町と連携を強化して情報発信するとともに、一体的な観光客の誘致に努めていく必要があります。

(2) 観光資源の活用と情報提供の充実

①　地域資源の発掘と活用

当地方の食文化として特徴的なもち料理については、学校給食での「もち食」の提供や「もち本膳体験」等の実施、また、日本食の世界無形文化遺産登録のためのユネスコあての提案書に「一関もち食推進会議」の活動が記載されるなど、取り組みの成果が表れてきています。

平成25年12月に「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことにより、「一関のもち食文化」がさらに注目を集めてきており、「全国ご当地もちサミット」や「日本一のもちつき大会」をはじめ、もちに関する様々なイベントによる誘客を図っています。

平成26年11月、パリにおいて開催された復興報告会では、もちに関する講演やもちつきの実演、平成27年７月にはミラノ国際博覧会へ参加してもちつきを実演するなど、海外に向けて「一関のもち」を積極的にＰＲしてきました。

全国ご当地もちサミットin一関

一方、一関もち食推進会議が主体となって「一関のもち」のブランド化の構築も目指しており、関係機関と連携しながらもちの商品開発や

事業者ネットワークの構築に努めています。

「もち食」については地域観光の魅力の一つであり、「一関のもち食文化」と、その背景にある農業や農村景観、平泉の文化遺産などの魅力ある地域資源を活かし、来訪ルート設定や戦略的なプロモーション展開等による誘客の推進、訪日外国人の受入環境の整備を図るとともに、「一関のもち」のブランド化に向けて引き続き取り組んでいく必要があります。

また、全国地ビールフェスティバルin一関は、本市を代表するイベントの一つとして定着しており、全国各地から多くの来場者が訪れています。

長年の開催に伴うマンネリ化、来場者数の減少等を防ぐため、今後は実施内容の見直し等、創意工夫を図る必要があります。

② 観光情報の充実

一ノ関駅の案内機能を強化、充実させるため、一ノ関駅構内に臨時案内所の設置や一般社団法人一関観光協会が運営している駅前案内所に外国語に堪能な職員を配置し、訪日外国人旅行者に対してきめ細やかな対応が行えるよう観光案内窓口の体制を整えています。

また、英語、韓国語、中国語（繁体字・簡体字）の外国語表記による観光パンフレットを平成24年度に作成し、訪日外国人旅行者の利便性の向上を図っています。

平成25年度には、利用者の視点に立ったわかりやすい観光ホームページとしてリニューアルを図るとともに、桜の開花情報や紅葉状況をタイムリーに情報発信を行っています。さらに、フェイスブックを活用し様々な観光情報の発信を行い、アクセス数が増加しています。

一ノ関駅については、構内に案内所を設置することが望まれており、周辺の誘導サインと併せ整備について検討していく必要があります。

また、観光客のニーズが絶えず変化していることから、市内を訪れた観光客に対し来訪目的や訪れた観光地への満足度について、改めて調査を実施し、観光振興に活かしていく必要があります。

③ 体験交流型観光の推進

観光モデルルートにおいて、本市でしか体験することのできない施設を組み入れ、観光客のニーズに対応しています。

いちのせきニューツーリズム協議会が組織され、窓口となって農家民泊の推進と教育旅行の受入体制の整備に取り組むなど体験交流型観光の推進を図っています。

着地型旅行は、商品造成を継続させるためには収益性などの課題もあることから、実施にあたっては内容の充実を図るとともに、関係機関との調整や専門スタッフの配置など、盤石な組織体制が望まれます。

④　須川・真湯・祭畤地区の観光資源の活用

栗駒山は本市においても貴重な観光資源となっていることから、山開きやその他登山事業等、積極的に事業および情報発信を行ってきました。

平成23年７月には、栗駒山（須川岳）周辺自治体の秋田県湯沢市および東成瀬村、宮城県栗原市および本市を構成市村とする「ゆっくりひとめぐり栗駒山麓連絡会議」を設立し、広域的に連携して観光振興および誘客等に取り組んでいます。

今後も引き続き構成市村と連携を図りながら、新たな観光資源や観光ルートの開発等に取り組んでいく必要があります。

真湯地区の観光資源である真湯温泉については、これまでの真湯山荘を改修し、平成23年５月に一関市真湯温泉センターとして新たにオープンし、指定管理施設として民間事業者が管理運営業務を行い、サービスの質の向上を図っています。

また、平成20年６月の岩手・宮城内陸地震および平成23年３月の東日本大震災の影響により、温泉供給が不可能となっていた同施設内の内風呂についても、平成24年10月に新たな源泉の掘削により温泉供給を再開し、年間を通して多くの方に利用されています。

しかしながら、一関市真湯温泉センター・温泉交流館を平成23年に改修したものの、真湯山荘時代から引き続き使用している温泉設備等の老朽化が著しく、今後改修が必要となっています。

また、同施設の管理運営についても、指定管理事業者への定期的な業務指導等、更なるサービスの質の向上を図っていく必要があります。

なお、真湯・祭畤地区には、岩手・宮城内陸地震で落下した祭畤大橋が災害遺構として保存され、周囲には「祭畤被災地見学通路」と「祭畤被災地展望の丘」が整備されています。災害の記憶を後世に伝えるこれら施設を観光資源の一つに捉え、情報発信に努めていく必要があります。

さらに、祭畤地区では、いちのせき健康の森セミナーハウスや多目的グランド、キャンプ場、祭畤スノーランドなどを設置しており、小・中学生の課外学習や宿泊研修、生涯学習事業等で利用されています。一関温泉郷との連携を図りながら、魅力ある滞在メニューづくりに取り組んでいく必要があります。

平成27年９月26日に開通した奥州市と本市にまたがる市道は、「栗駒焼石ほっとライン」の愛称で祭畤大橋と胆沢ダム、さらには栗駒山と焼石岳を結ぶ新たな観光ルートとして期待されており、ＰＲに努めていく必要があります。

須川・真湯・祭畤地区が相互に連携し、一体となって今後も新たな魅力のＰＲに努め、観光客や温泉・研修等施設利用者の増加につなげる必要があります。

⑤　誘客の推進

本市の多彩な観光資源を効果的に情報発信し、より多くの観光客の誘致を図るため、平成25年から本市観光ホームページ「いち旅！」の運用を開始し、観光写真ダウンロードシステムや自分でドライブ観光ルートが作成できる機能、ブログやツイッター機能を備えるなど観光ホームページのリニューアルを図ったところです。

また、大型観光キャンペーンや首都圏での観光ＰＲ、多言語版観光パンフレットを作成配布しＰＲに努めたところです。

今後は紙媒体だけでなく、ＳＮＳ等多様な情報発信ツールにより情報提供を行う必要があります。

また、平成28年３月に北海道新幹線が開業したことから、新たな観光キャンペーンの実施や教育旅行の誘致等、周辺関係市町との連携により北海道からの誘客を図っていく必要があります。

北海道新幹線開業に伴う歓迎

(3) 観光に関する受け入れ態勢の整備

①　おもてなし意識の涵養とガイドの確保

おもてなし意識醸成のため、訪れた観光客に満足いただけるよう地域全体で継続的なおもてなし意識の高揚が求められています。

観光ボランティアガイドについては、訪れた人に本市の観光の魅力を伝えて感動を呼ぶことができる重要な役割を担うことから、ボランティア団体の活動支援や観光ガイド養成講座を開催するなど、その育成を図ったところであり、今後も観光客に地域の良さを伝えて感動を呼ぶ案内人として、観光ボランティアガイドの確保と育成に努める必要があります。

一関市観光ボランティアガイド養成講座

②　観光施設、公共施設等の整備

多言語表記案内板を主要観光地に整備し、観光案内機能の充実に取り組んだところです。

一方、既存の案内標識の見直しや周辺観光地を網羅した分かりやすい新たな観光案内板の設置については未実施となっています。

本市は市域が広く多くの観光資源を保有することから、観光客に認識されやすい統一したデザインの観光案内板の設置が望まれています。

③　観光ルートの整備

本市観光ホームページ「いち旅！」において、観光モデルルートの周知を図るとともに、市内を主要道路別に分けたドライブルートのパンフレットを作成し、情報発信を行いました。

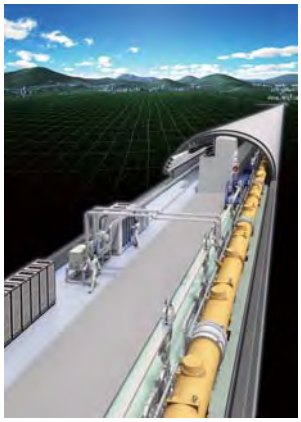
広域観光ルートの取組については、世界遺産平泉を中心とした観光ルートや花泉地域、館ヶ森高原、宮城県北などの花をテーマとした観光ルート等、テーマ性のある観光ルートの発信に努めたところです。

今後、岩手県南・宮城県北の市町との連携を図り、更なる広域的な観光ルートの整備等を行っていく必要があります。

④　二次交通網の整備

路線バスが運行されていない平泉、猊鼻渓間について、バス運行による交通対策を図ったところです。

今後も平泉の世界遺産を訪れている観光客の更なる誘致を図るため、周辺自治体や関係機関等と連携しながら二次交通網を整備していく必要があります。


©Rey. Hori

⑤　国際会議等誘致方策の検討

平成25年８月、ILC立地評価会議による記者会見において、国際リニアコライダー（ILC）の国内候補地として北上山地（北上高地）が最適であるとの発表がなされました。

これに伴い、最終的な政府の判断を見据えながら、ＭＩＣＥ等に向けたビジネス観光に対する検討を引き続き行っていく必要があります。

(注)MICEとは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことで、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称のことをいう。

(4) 広域連携の推進

①　行政区域の枠を越えた連携

福島県三春町を始めとする本市の姉妹都市や友好都市などと相互に協力しながら首都圏等での「一関の物産と観光展」を開催し、地場産品の育成と販路拡大、観光情報の発信に努めたところです。

周辺地域との連携については、同一の経済圏であり、通勤・通学・医療など同じ生活圏である岩手県南（一関市、平泉町）・宮城県北（登米市、栗原市）の４市町での連携

や平泉町、奥州市、岩手県県南広域振興局、観光協会、商工会議所等で構成している「世界遺産連携推進実行委員会」により、世界遺産「平泉」を活用した一層の誘客活動を推進するとともに、栗駒山（須川岳）周辺自治体の秋田県湯沢市、宮城県栗原市、秋田県東成瀬村と構成している「ゆっくりひとめぐり栗駒山麓連絡会議」により、栗駒山の魅力と周辺地域の観光のＰＲに取り組んでいます。

さらに、自治体名に数字を冠した二戸市、青森県三沢市と福島県二本松市、三春町とともに「イチ、ニのサン！元気な東北発信事業」を実施し、市民交流やイベントへの相互参加などの連携事業にも取り組んだところです。

このほか、宮城県（仙台市、気仙沼市、大崎市、塩竈市、松島町、南三陸町）・山形県（最上町）・岩手県（一関市、奥州市、平泉町）で構成する伊達な広域観光推進協議会にも参画するなど、広域的な観点から観光客の誘致に取り組んでいます。

こうした行政区域の枠を越えた連携は、観光ＰＲの機会を一層増大させることにつながり、又、効果的な誘致活動につながることから積極的な関与が必要であり、首都圏等でのイベントへの共同出展など各機関との連絡調整を密にしながら本市への誘客につながる事業を実施していく必要があります。

ゆっくりひとめぐり栗駒山麓連絡会議主催の山の日
栗駒山清掃登山

②　地域資源の相互活用

多様化している観光ニーズに応えていくため、広域連携により組織化されたそれぞれの協議会において、構成団体の保有する共通の観光資源を利用したテーマ型観光パンフレットを作成および配布することにより観光客の誘致に努めています。

第３章　観光振興計画の基本方針

１　基本理念

第２章の１「観光を取り巻く最近の情勢」で記述したように、本市の観光についての状況を見てみると、過去二度にわたる震災の影響を大きく受ける一方、平成23年６月に平泉がユネスコ世界文化遺産に登録されたことなど、その状況は従来に比べ大きく変化しています。

また、近年の傾向として、旅行形態が団体旅行から個人旅行に変わり、発地型観光から着地型観光へのシフト、本物・こだわり志向の高まり、ニューツーリズムなど従来の観光の枠にとらわれない新たなニーズへの対応が求められるとともに、国際観光への対応、ICTの発展に伴う多様な情報発信など、少子高齢・人口減少社会の中で長期的な展望に立ちつつも、短期的課題や優先度を踏まえた戦略的な取組が必要となっています。

また、前計画の成果や総括を踏まえるとともに、本市の強み・弱みの分析結果を基に、賑わいあふれる観光地域づくりを推進し、観光振興による地域経済の活性化を図りながら雇用創出に努めていくには、選択と集中による観光施策の展開が必要です。

栗駒山

特に「平泉」の世界遺産登録は、平泉の玄関口としての役割を果たす本市にとって、観光振興を図っていく上で重要な契機であり、より一層周辺地域との連携を強化し、地域一体となって観光施策を推進していく必要があります。

さらに、岩手県南地域、宮城県、秋田県など隣接地域が関与する広域的な枠組みにも本市としても引き続き参画しながら連携を図り、圏域内外との交流を促進していくことが期待されています。

このためには、おもてなしの心で観光客を迎え入れるいやしの里として、住む人、訪れる人双方が交流を図りながら、市民一人ひとりが観光の担い手として心のこもったおもてなしに努めることが重要です。

本市には、栗駒国定公園や室根高原県立自然公園をはじめ猊鼻渓、厳美渓などの自然資源や骨寺村荘園遺跡など歴史的、文化的資源、祭りや伝統行事があり、これら観光資源を活用し、訪れる観光客へ心のこもった笑顔で迎え入れることによりいやされ、もう一度訪れてみたくなる観光地を目指します。

このようなことから、「恵まれた自然と悠久の歴史が育むいやしの里　いちのせき」を基本理念に掲げ、以下の５つの項目を基本方針として観光振興に取り組みます。

恵まれた自然と悠久の歴史が育むいやしの里　いちのせき

2　基本方針

1　平泉との連携強化による一関ブランドの発信

世界遺産「平泉」と本市の主要観光地である猊鼻渓と厳美渓との観光ルートの利便性向上に努めるとともに、更なる観光客の誘致を図るため平泉町や周辺地域等との連携強化に努めます。

また、世界遺産「平泉」の関連資産として拡張登録を目指す骨寺村荘園遺跡の観光資源や平泉に由来する伝承等、平泉とのゆかりを観光資源として活用するなど、各地域の特色ある情報の発信に努めます。

さらに、日本など世界各国が加盟する国際かんがい排水委員会が、かんがいの歴史、発展を明らかにし、かんがい施設の適切な保全に資するために創設した「世界かんがい施設遺産」に本市と平泉町を流れる「照井堰用水」が登録されたことを好機に、第一次産業の活性化を図りながら、岩手県、本市、奥州市、平泉町において取組を進めている束稲山麓地域の世界農業遺産の登録を目指し、世界農業遺産と世界遺産「平泉」との連携による観光客の誘致に努めます。

こうした取組により、自然資源・景観、地域固有の歴史文化、食文化など世界遺産「平泉」の玄関口である本市に来訪することにより体験できる観光資源についての認知度向上を図るとともに、一関・平泉地域の特産品を観光の魅力を高める観光資源として活用し、一関地方物産振興協会等と連携した観光客の誘致を図りながら、「いちのせき」の観光地としてのブランド化に努めます。

世界かんがい施設遺産に選定された照井堰用水

2　観光資源の活用と情報提供の充実

本市は、美しい自然環境、貴重な歴史的遺産、独自の食文化など、豊かな観光資源に恵まれており、これらの観光資源の活用と魅力の再発見を行うとともに、体験交流型観光を一層推進します。

また、観光客の興味や動向を踏まえたタイムリーな情報を発信するなど、より効果的で積極的な情報提供に努めます。

3　観光に関する受け入れ態勢の整備

訪れた観光客が市内を快適に回遊できるよう、わかりやすい観光案内板の設置や円滑な移動手段につながる二次交通の確保、さらには国内外から観光客を受け入れる体制の充実を図るとともに、市民一人ひとりがおもてなしの心で観光客を迎え入れるための市民意識の醸成にも努めます。

4　広域連携の推進

東北のほぼ中央に位置する本市の地理的要因を活かした県境を越えた近隣市町村との連携や姉妹都市および友好都市との連携を強化し、相互に補完しあいながら交流人口の増加に努めます。

5　インバウンド誘客の推進

外国人観光客の誘客推進に向けて、観光案内板などの多言語表記やWi-Fiスポットの整備促進など受入環境の整備を図るとともに、関係機関や関係団体等と連携し、主要観光地である厳美渓と猊鼻渓を中心とした、本市の魅力ある観光資源の情報発信を行い、積極的な海外プロモーションや宣伝活動の推進に努めます。

また、伝統芸能や芸術文化などを通じた海外交流の促進に努め、外国人観光客等が祭りや伝統芸能などの日本文化や食文化などを気軽に体験できる仕組みづくりの推進に努めます。

さらに、国が農山漁村地域に根付く食文化を活かして外国人観光客の誘致に取り組むために創設した「食と農の景勝地」に認定されたことを好機に、一関・平泉地域の「もち食文化」とその背景にある農業や農村景観、平泉の文化遺産などの魅力ある地域資源を生かして、外国人観光客の誘致に努めます。

「食と農の景勝地」ＰＲポスターと認定証

3　観光入込客数の目標

観光入込客数の目標として、年間観光入込客数、外国人観光入込客数を用いることとし、計画最終年度の平成33年度の目標値を次のとおり設定します。

指　　標	平成27年度（現状値）	平成33年度（目標値）	摘　　要
年間観光入込客数	約220万人回	231万人回	目標値は、一関市総合計画前期基本計画（H28～32）において、東日本大震災前（H22）の水準を目指していることから、計画推進の効果として、現状値の約５％の増加を目指します。
外国人観光入込客数	9,097人回	27,000人回	目標値は、明日の日本を支える観光ビジョン（H28.3観光庁策定）において、H32における東北６県外国人宿泊者数について150万人泊（H27の３倍）を目指していることから、計画推進の効果として、現状値の約３倍を目指します。

第４章　観光振興戦略

１　平泉との連携強化による一関ブランドの発信

①　平泉と主要観光地をつなぐルートを活かした一関ブランドの発信

・豊富な観光資源や地域資源を本市の宝として磨き上げを行い、一関ブランドの確立を図りながら、魅力ある観光情報の発信に努めます。
・本市を代表する観光地である猊鼻渓、厳美渓と世界遺産「平泉」を結ぶ観光ルートの定着を図るため、鉄道、バス、レンタカーなどの交通機関の周知など一層の利用促進に努めます。
・北東北の観光周遊誘導情報発信の拠点として、平成29年度に開業予定の道の駅「平泉」との一層の連携促進を図り、効果的な観光情報の発信に努めます。
・主要観光地における飲食店、土産物店、博物館等の観光施設利用にかかる情報を旅行者向けに広く周知するなど、本市における滞在時間の増加を図ります。
・一関・平泉地域の特産品を観光の魅力を高める観光資源として活用し、一関地方物産振興協会等と連携した観光客の誘致を図りながら、「いちのせき」の観光地としてのブランド化に努めます。
・沿岸被災地の震災復興にも寄与すべく、旅行業者や関係団体等と連携を図り、本市から沿岸地域に向かうルートを活用した新たな旅行商品造成に努めます。
・本市と平泉町、奥州市に広がる束稲山麓地域は、伝統的な棚田農業と遊水地を活用した大区画水田農業を組み合わせ、水害リスクを分散させる全国的にも希少なスタイルの農業が営まれていることから、世界農業遺産および日本農業遺産の認定を目指しており、世界かんがい施設遺産「照井堰用水」や世界遺産「平泉」との連携による観光客の誘致に努めます。

毛越寺・浄土庭園

②　骨寺村荘園遺跡の活用

・骨寺村荘園遺跡の情報発信および来訪者と地域住民との交流促進を目的として設置した、骨寺村荘園交流館（愛称：若神子亭）と併設の展示棟施設の効果的な活用を図るとともに、その歴史的価値を正しく伝えていくため、地元ガイドやボランティアガイドの会との連携や調整を図り、ガイド体制の充実に努めます。
・骨寺村荘園遺跡の魅力と価値は、日本の原風景とも言える農村景観と本寺地区の日常の営みにあります。骨寺村荘園遺跡の観光活用に当たっては、農家民泊の実施や農作業等体験イベントの開催、平泉と関連した伝統行事のＰＲなどを通じ、都会等にはない地域の特色

を活かしながら観光客の誘致に努めます。

③　平泉とのゆかりを活かした観光振興

・本市の各地には義経伝説や松尾芭蕉の奥の細道紀行など、平泉に関連する言い伝えや行事などが多く残されており、一部は史跡として今に伝えられています。こうした伝承などについても情報発信を行い、観光資源として活用し観光客の誘致に努めます。

④　一関・平泉地域連携DMO（仮称）の設立

・観光地域づくりの推進に当たっては、地域の多様な関係者が連携し、地域に息づく暮らし、自然、歴史、文化等に係る地域の幅広い資源を最大限に活用していくことが必要です。このため、本市と平泉町において、行政、観光関連事業者をはじめとする地域の多様な関係者、地域住民とが連携・協力しながら、観光振興による地域づくりを推進する組織である日本版ＤＭＯ（Destination Management / Marketing Organization）の設立に努めます。

一関・平泉地域ＤＭＯセミナー

【重点的取り組み】

（１）平泉と猊鼻渓、厳美渓など主要観光地を結ぶルートの情報発信と交通機関の利用促進
（２）一関市内と沿岸地域を結ぶ観光ルートの提案と情報発信
（３）一関・平泉地域特産品の魅力的な観光資源化による誘客推進と観光地ブランドの確立
（４）骨寺村荘園遺跡の観光情報発信の強化と体験イベントの拡充
（５）平泉とのゆかりを活かした情報発信
（６）一関・平泉地域連携DMO（仮称）の設立

２　観光資源の活用と情報提供の充実

①　地域資源の発掘と活用

・本市にある多くの観光資源について、季節ごとの表情や移り変わりなど、それぞれの「旬」の情報を的確に収集発信するとともに、観光シーズン以外にも観光客を呼べるような新たな観光資源の発掘に努めます。
・本市の特色あるイベントや自然景勝地など、多種多様な既存の観光資源のブラッシュ

アップに努めます。

・首都圏などで開催する「物産と観光展」や「うまいもん！まるごといちのせきの日」などを通じて、本市の特産品等の紹介をするなど一関ブランドの発信に努めます。

・「食」は観光ニーズの重要なポイントであることから、地場の食材を使った料理、当地方ならではの特徴的な食文化の提供を行うための環境整備や「食」と「農」と「観光」を結びつけて観光地の魅力を発信し、観光客の誘致に努めます。特にも、当地方の特徴的な食文化であるもち食による一関ブランド構築を目指し、「もち本膳体験」や「もちマイスター検定」などによる文化継承のための活動を行うほか、関連イベントを開催するなど情報発信を強化します。

・全国地ビールフェスティバルin一関は、本市を代表するイベントの一つとして定着し、仙台圏をはじめ、全国から多くの方々に来場いただいています。今後は、2012年から始まった一関・平泉バルーンフェスティバルや全国ご当地もちサミットの周知に努めるとともに、地域の伝統行事として知られる一関市・大東大原水かけ祭り、室根神社特別大祭、藤沢野焼祭等についても、仙台圏や首都圏等からの誘客につながるイベントおよび行事として定着するよう情報の発信に努めます。

全国地ビールフェスティバルin一関

②　観光情報の充実

・一ノ関駅における情報発信力を強化し、岩手県の南の玄関口として、周辺の観光地を含めた観光情報の提供に努めます。

・一般社団法人一関観光協会の観光案内所を、本市の観光情報サービスの総合窓口として位置づけるとともに、各地域の連携によるオール一関としての情報提供が行われるよう各観光協会の一本化を目指し、相互のより一層の連携を促進します。

・観光の目的が多様化し、いつ、だれに、どのような楽しみを、どのように提供するかが重要となっており、観光客のニーズに対応したわかりやすい具体的な観光情報の提供が求められていることから、ホームページやパンフレット、ツイッター、フェイスブック、スマートフォンアプリ等の時代に即した多彩なツールを活用し情報発信に努めます。

・観光ホームページは、利用者の視点に立った必要な情報をすぐに探し出せるようなわかりやすさが求められていることから、国内旅行者はもとより、外国人観光客に対応した多言語化や内容の充実を図るなど、わかりやすく統一感のあるホームページによる情報発信に取り組みます。

・観光客の誘致に用いるパンフレットとあわせ、実際に本市に訪れたときに役立つ着地型情報のパンフレットの作成を進めるとともに、外国人観光客の利便性を確保するため、７か国語に対応する音声ガイドペンを活用した翻訳型の観光パンフレットを導入します。

・本市の観光振興における現状および課題や観光客が求めるニーズについては、旅行者へのアンケート調査等により把握し解決策を検討します。

③　体験交流型観光の推進

・国内外の観光客ニーズの多様化による、旅行形態の個人化や小グループ化への移行や地域の特色を活かした体験・交流型観光ニーズの高まりに対応するため、フィールドアスレチック、キャンプ等のアウトドアスポーツや紙すき、特産品づくり体験、酒蔵見学などの体験・見学、さらには農家民泊、農業体験、教育旅行、スポーツ合宿など自然や風土を活かしながら、ここでしか得られない価値の創出に努めます。

紙すき体験

④　須川・真湯・祭畤地区の観光資源の活用

・栗駒山は、希少な高山植物や山肌一面が真っ赤に染まる秋の紅葉などが楽しめ、山頂からは遠く太平洋まで眺望できる風光明媚な名山として、多くの観光客や登山者に人気があります。また、登山口には秘湯としても知られる須川高原温泉があり、春から秋にかけて季節の魅力を十分に堪能できる観光エリアとなっていることから、重点的に情報発信を行い、更なる誘客に努めます。

・栗駒山は、岩手・秋田・宮城の３県の県境に位置し、それぞれに魅力ある観光資源を保有していることから、本市の観光資源に留まらず、隣接する栗原市・湯沢市・東成瀬村との連携を強化するとともに広域の観光ルートの設定や登山道整備など、多様な観光客のニーズに対応するための環境整備に努めます。

・真湯・祭畤地区には、岩手・宮城内陸地震で落下した祭畤大橋が災害遺構として保存され、周囲には「祭畤被災地見学通路」と「祭畤被災地展望の丘」が整備されています。災害の記憶を後世に伝えていくこれら施設とあわせ、市民の憩いの場として整備した真湯温泉センターやいちのせき健康の森などの体験型学習施設を観光資源として捉え、地域に特化したパンフレットを新たに作成するなど一層の誘客推進に努めます。

・奥州市と本市にまたがる新たな観光ルートの「栗駒焼石ほっとライン」は、祭畤大橋から胆沢ダムやつぶ沼等を結び、新緑シーズン、紅葉シーズンはもとより、栗駒山と焼石岳の広域的な交流と観光につなげるために情報発信に努めます。

祭畤大橋（落橋）展望の丘

⑤　誘客の推進

・岩手県をはじめ、県内全市町村とその他観光関連事業者で構成するいわて観光キャンペーン協議会によるＪＲ東日本の重点販売期間とタイアップした観光キャンペーンを実施することにより、多くの観光客の来訪が見込まれることから、本市の多彩な観光資源を効果的に情報発信し、より多くの観光客誘致に努めます。

・平成28年３月の北海道新幹線開業に伴い、東北と北海道の一層の人的相互交流の拡大が大いに期待されます。こうした機を捉え、伊達な広域観光推進協議会や周辺地域と連携しつつ、本市の学習型の観光施設や地域の魅力をＰＲしながら、教育旅行の分野での観光客誘致に努めます。

・ＪＲ東日本が観光立国推進の一環として、平成29年５月から運行開始する、上野駅発着のクルーズトレイン「TRAIN SUITE四季島」の運行ルートの一つに、一ノ関駅への停車が盛り込まれたことにより、観光客の増加が期待されます。こうした機を捉え、関係機関との連携を図りながら、本市の観光地等の魅力を効果的に情報発信し、より多くの観光客誘致に努めます。

【重点的取り組み】

（１）市内の観光資源の再発掘と街なか観光の振興
（２）観光ホームページ等の充実
（３）「食・農・観光」の連携による観光地の魅力発信と誘客推進
（４）特色あるイベント情報の全国発信
（５）体験交流型観光を活かした農家民泊や教育旅行の誘客推進
（６）須川・真湯・祭畤地区の情報発信と誘客推進
（７）大型観光キャンペーン等と連動した「旬」の情報発信機能の充実
（８）北海道を対象とした教育旅行の誘客推進

３　観光に関する受け入れ態勢の整備

①　おもてなし意識の醸成とガイドの確保

・市民一人ひとりが観光客を温かく迎え、わかりやすく案内し、心からもてなす心を持つよう意識の向上を図るため、講演会、研修会を開催することで、市民の意識啓発、接遇能力の向上に努めます。

・観光施設や観光関連業者、従事者はもとより、市民一人ひとりがおもてなしの心を持って観光客を迎え入れるための意識啓発や、観光客の視点に立ったサービスの提供に努めます。

観光客おもてなし向上セミナー

・観光ボランティアガイドの養成および組織の育成を支援するとともに、外国人観光客に対応できる人員を観光案内所に配置するなど、受け入れ態勢の充実に努めます。

②　観光施設、公共施設等の整備

・観光関連業者の意識啓発を図り、Wi-Fiの整備、わかりやすいトイレ表示や外国語表示、バリアフリー対策などユニバーサルデザインの推進に努めます。
・既存の案内標識の見直しを行うほか、大型バスや自家用車等を利用した観光客の動線に配慮し、幹線道路など必要な箇所への適正な誘導表示の設置について、関係機関と検討します。
・増加が見込まれる外国人観光客に対応するため、外国語表記による観光案内板の設置や洋式トイレへの改修の促進に努めます。

③　観光ルートの整備

・本市を含む岩手県南・宮城県北の多くの観光地や観光資源をつなぐため、歴史や花あるいは景勝地など観光客のニーズにマッチしたストーリー性のある観光ルートの整備と情報発信に努めます。
・広い市域での道路アクセスの向上が図られるよう、市内観光地を結ぶ路線の整備促進を含む交通体系の整備を関係機関に働きかけるとともに、併せて本市と市外の観光地とを結ぶ広域観光ルートの開発に努めます。
・本市はこれまでも沿岸地域と盛んな交流があり、震災復興に取り組む過程においても全国各地から沿岸被災地へ向かう結節点となっています。こうした地理的特性を活かし、本市から沿岸地域に至るルート上の歴史や文化資源、体験型観光素材と被災地支援活動を組み合わせた観光ルートの開発に努めます。
・道の駅は、観光周遊誘導情報発信の拠点として期待できることから、平成29年度に開業予定の道の駅「平泉」や市内にある道の駅「厳美渓」、「かわさき」、室根バイパス開通に伴い室根地域に建設予定の道の駅の活用を図り、観光客の誘致につながる一関ブランドによる魅力ある観光ルートの開発に努めるとともに、観光物産情報発信の推進方策について検討します。

④　二次交通網の構築

・平泉地域を含む本市の主要な観光地間を結ぶ二次交通網について、既存の路線バスやタクシープランの設定およびレンタカーを含めた円滑な移動手段の整備強化を図るため、周辺自治体や関係機関と連携し取り組みます。
・本市は市域が広いことから、レンタカー、タクシーの利用を含めた二次交通網の構築や利用環境の整備について、事業者や関係機関と協議しながら取り組みます。

⑤　国際会議等誘致方策の検討

・国際リニアコライダー誘致の動向を見据え、ＭＩＣＥ等のビジネス観光の需要増が見込まれることから、今後の誘致に向けた体制整備の方策を検討します。

【重点的取り組み】

（１）市民主体のおもてなし意識の醸成
（２）ボランティアガイドの育成
（３）看板などの観光案内機能の充実
（４）広域観光ルートの開発
（５）二次交通網の充実
（６）国際会議等誘致方策の検討

４　広域連携の推進

①　行政区域の枠を越えた連携

・本市が仙台市と盛岡市の中間に位置するという地理的優位性から、観光面においても岩手県南から宮城県北までの中東北の拠点都市を目指し、既存の行政区域の枠を越えて拡大している住民の活動範囲をとらえ、垣根を越えた民間・行政など様々なレベルにおいて広域での観光連携を図りながら圏域内の観光の活発化を図ります。

登米市・栗原市・一関市・平泉町　首長懇談会

・姉妹都市の福島県三春町と国際姉妹都市のオーストラリア・セントラルハイランズ市や宮城県気仙沼市などの友好都市と物産と観光面での一層の連携強化に努めます。
・宮城県登米市、宮城県栗原市、平泉町との４市町連携や世界遺産連携推進実行委員会、イチ、ニのサン！元気な東北発信事業、同事業partⅡ、ゆっくりひとめぐり栗駒山麓連絡会議などの各種広域連携組織の活動を通じ、その目的に応じた観光振興を図るため関係市町村との連携強化に努めます。
・関係市町と連携し、平泉の世界遺産を目的に来訪した観光客の案内を的確に行い、圏域内の観光地への周遊を誘導しながら当地方への滞留時間を長くし、宿泊につながる旅行商品の造成に努めます。

②　地域資源の相互利用

・多様化している観光ニーズに応えていくために、広域連携を図る各市町村の観光資源を共

有しながら相互に補完や利用して、観光客の広域的な受入体制の確立を目指します。

・観光資源を有効的に活用していくために、現存する観光素材を磨き上げるとともに、新たな観光素材を発掘や造成することで、広域的な観光商品の提供を実現できるように取り組みます。

【重点的取り組み】

（1）広域観光を進めるための関係市町村との連携促進
（2）姉妹都市等との交流の強化
（3）広域連携組織への参画

5　インバウンド誘客の推進

①　外国人に対する情報発信の強化

「食と農の景勝地」認定を祝う関係者

・本市観光ホームページ「いち旅！」の多言語化を図るとともに、ＳＮＳ等の活用により、国内外の外国人に本市の観光地等の魅力を伝えられる情報発信に取り組みます。

・海外旅行博等への出展や、人気ブロガーや海外メディア等の招へいにより、本市の観光地等の魅力を情報発信し、本市の知名度の向上を図ります。

・国が行う「食と農の景勝地」認定地域における海外への情報発信と連携を図りながら、一関・平泉地域の「もち食文化」や平泉の文化遺産などの魅力ある地域資源の情報発信を行い、外国人観光客の誘致に努めます。

②　外国人観光客の受入環境の整備

・市民一人ひとりが外国人観光客をおもてなしの心を持って迎え入れることができるよう、講演会や研修会等を開催し、外国人観光客の積極的な受け入れに向けた機運の醸成を図ります。

・観光案内表示、公共施設等の外国語の併記、Wi-Fi環境の整備の促進を図り、外国人観光客の利便性を高めます。

③　国際会議等誘致方策の検討

・インバウンド誘客の推進方策の一環として、ＭＩＣＥ等のビジネス観光の積極的な誘致活動の展開が重要であることから、インバウンド誘客につながるＭＩＣＥ等のビジネス観光の誘致方策を検討します。

【重点的取り組み】

（1）海外への情報発信の強化
（2）外国人観光客の受入意識の醸成
（3）外国人観光客の受入環境の充実

6　各地域の重点取り組み事項

市域の広い本市は、それぞれの地域に特色ある景勝地や行楽地、温泉等の観光地があり、四季を通じて多彩な祭りやイベントが開催されています。

本市の観光振興を着実に進めていくためには、これまで本章に示した観光戦略とともに各地域の特性を活かした観光資源の整備・活用を推進する必要があることから、４つの地域を設定し、それぞれの地域における重点的取組事項を示し、地域間の連携を図りながら特色ある観光地づくりを推進します。

【一関・東山地域】

・世界遺産「平泉」と猊鼻渓、厳美渓の二次交通網の整備
・地元ガイドによる歴史の小道などの街散策
・東京都豊島区・品川区、福島県三春町、宮城県仙台市などでの物産と観光展の開催
・一関温泉郷や各種イベントのＰＲ
・栗駒山、真湯・祭畤地区への誘客推進と栗駒山麓周辺市村との連携の強化
・外国人観光客の受け入れ環境の整備
・猊鼻渓への誘客推進と回遊対策の強化
・農家民泊の推進

【花泉・藤沢地域】
・花と泉の公園や大籠キリシタン殉教公園のＰＲ
・花と動物に特化したファミリー向けイベントの企画実施
・東京都江東区での物産と観光展の開催
・館ヶ森収穫祭などのイベント開催等による館ヶ森高原への誘客推進
・各種イベントのＰＲ
・農家民泊の推進

【大東・室根地域】
・山吹棚田や芦東山記念館のＰＲ
・室根山周辺で開催されるアウトドアスポーツの推進
・室根山観光やひこばえの森の情報発信
・神奈川県藤沢市、埼玉県吉川市での物産と観光展の開催
・各種イベントのＰＲ
・農家民泊の推進

【千厩・川崎地域】
・千厩酒のくら交流施設への誘客推進
・夫婦石ＰＲのための事業実施
・東京都世田谷区・町田市、神奈川県川崎市での物産と観光展の開催
・道の駅かわさきを活用した情報発信
・各種イベントのＰＲ
・農家民泊の推進

花と泉の公園（ベゴニア館）

大籠キリシタン殉教公園

室根山

第5章　計画の推進

1　市民、観光関係団体等、DMOおよび行政の役割

国では、平成28年を「東北観光復興元年」として、新たな交付金の創設など各種施策を展開し、インバウンドを呼び込む取組を強化しており、本市の観光を伸展させる動きがある中で、これらの機会を活かしながら本計画を着実に推進するには、市民、観光関係団体等および行政が共に連携し、観光をめぐる環境の変化に対応した有効な取り組みを行っていくことが必要です。

このため、それぞれが担う役割を明確にし、観光振興計画が着実に推進されるよう取り組みます。

（市民の役割）

観光は、交流人口の増大や地場産品の消費拡大、新たな雇用の創出などにより、地域づくり・地域経済に大きな効果を生み出す産業であることを、市民一人ひとりが認識することが求められています。また、観光客に感動を呼び、リピーターとなっていただけるようおもてなしの心を持って観光客を迎え入れるため、積極的な声がけや、住む場所、観光地の清掃活動、観光ガイド、各種イベントへの参加など本市の魅力アップにつながる身近な活動に積極的に取り組むことが期待されます。

（観光関係団体等の役割）

観光関係団体、観光事業者等は観光の最前線でお客様にサービスを提供することから、観光振興の担い手として重要な役割を果たす立場にあります。観光客のニーズに対応した観光プランの提供に取り組むとともに各種サービスの向上やおもてなし力の向上にもこれまで以上に積極的に取り組むことが期待されます。

また、インバウンドを呼び込むための無料Wi-Fi環境の整備促進やキャッシュレス観光に対応したクレジットカード決済対応、食事メニューの多言語化、洋式トイレへの改修などに取り組むことが期待されます。

（DMOの役割）

本市と平泉町において、観光振興による地域づくりを推進する組織である「一関・平泉地域連携DMO（仮称）」の設立を目指して検討を行っています。このDMOの役割としては、行政や宿泊、飲食、文化、スポーツ、農林漁業、商工業、交通事業、環境事業等の関連事業者や地域住民等の多様な関係者を調整し、地域全体での戦略的な観光地域づくりや複数地域の広域的な連携を主導していくことが求められます。

（行政の役割）

市は観光客の誘致推進を図るため、地域の観光資源の分析や観光動向の把握を行い、地域の魅力を最大限に活かす観光地域づくりに努めるとともに、国・県はもとより農業、食産業、文化、スポーツ、商工団体など幅広い産業団体と地域住民との連携による観光振興施策を円滑に推進し、観光基盤づくりの強化や地域経済の活性化等に努めることが求められています。

また、観光客誘致につながるイベントを開催し、観光の質を高めるなど、市民と観光客双方が満足する、賑わいあふれる観光地域づくりに取り組みます。

せんまやひなまつり

かわさき夏まつり花火大会

唐梅館絵巻

一関市・大東大原水かけ祭り

一関市観光振興計画の策定について

■計画の位置づけ

本計画は、平成28年度から平成37年度までの10年間のまちづくりの将来像を定めた「一関市総合計画基本構想」に掲げる「みつけよう　育てよう　郷土の宝　いのち輝く一関」の実現に向け、この基本構想に基づき平成28年度から平成32年度までのまちづくりの方向性を定めた「一関市総合計画前期基本計画」を上位計画とする観光部門計画として、本市観光振興の方向性とその施策を明らかにするものです。

また、策定にあたって、平成24年度に策定された「一関市観光振興計画」を「後期観光振興計画」と位置づけて策定することとします。

■計画の期間

本計画は、平成29年度から平成33年度までの5年間を計画期間とします。

基本理念　恵まれた自然と悠久の歴史が育むいやしの里　いちのせき

本計画の目標指標

平成27年度現状値
- ・年間観光入込客数　約220万人回
- ・外国人観光入込客数　9,097人回

平成33年度目標値
- ・年間観光入込客数　231万人回（約5%増）
- ・外国人観光入込客数　27,000人回（約3倍増）

一関市観光振興計画
（平成29年度～33年度）

【一関市の観光の課題】
（後期観光振興計画を踏まえた課題）

1平泉との連携強化による一関ブランドの発信
- ○平泉･猊鼻渓間の二次交通の利用促進
- ○骨寺村荘園交流館の利用促進と更なる骨寺村荘園遺跡を活用した事業の充実や展開
- ○平泉とのゆかりを活かした連携強化及び情報発信

2観光資源の活用と情報提供の充実
- ○「一関のもち食文化」を生かした来訪ルート設定、戦略的なプロモーション展開等による誘客の促進、訪日外国人の受入環境の整備
- ○観光資源である「一関のもち」のブランド化
- ○集客力維持に向けた全国地ビールフェスティバルin一関の創意工夫
- ○JR一ノ関駅構内への観光案内所の設置
- ○観光客満足度調査をもとにした観光振興
- ○着地型旅行の推進体制の整備
- ○須川、真湯、祭時地区の新たな観光資源の発掘、観光ルートの開発
- ○真湯温泉センターのサービスの質の向上
- ○祭時スノーランドと祭時温泉を活用した観光客滞在メニューの設定
- ○栗駒焼石ほっとラインのPR
- ○ICT（情報通信技術）の進展による多様な情報発信ツールでの情報提供
- ○北海道新幹線開業を好機とした北海道からの誘客推進

3観光に関する受け入れ態勢の整備
- ○観光ボランティアガイドの確保と育成
- ○既存案内標識の見直しと新たな案内看板の設置
- ○岩手県南、宮城県北の市町との連携による広域観光ルートの整備
- ○平泉からの誘客推進のための二次交通網の整備
- ○国際会議等の誘致

4広域連携の推進
- ○広域連携組織への積極的な関与
- ○観光客誘致につながる広域観光振興事業の共同実施

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み
1 平泉との連携強化による一関ブランドの発信	❶平泉と主要観光地をつなぐルートを活かした一関ブランドの発信 ❷骨寺村荘園遺跡の活用 ❸平泉とのゆかりを活かした観光振興 ❹一関･平泉地域連携DMO（仮称）の設立	(1) 平泉と猊鼻渓、厳美渓など主要観光地を結ぶルートの情報発信と交通機関の利用促進 (2) 一関市内と沿岸地域を結ぶ観光ルートの提案と情報発信 (3) 一関・平泉地域特産品の魅力的な観光資源化による誘客推進と観光地ブランドの確立 (4) 骨寺村荘園遺跡の観光情報発信の強化と体験イベントの拡充 (5) 平泉とのゆかりを活かした情報発信 (6) 一関・平泉地域連携ＤＭＯ（仮称）の設立
2 観光資源の活用と情報提供の充実	❶地域資源の発掘と活用 ❷観光情報の充実 ❸体験交流型観光の推進 ❹須川･真湯･祭時地区の観光資源の活用 ❺誘客の推進	(1) 市内の観光資源の再発掘と街なか観光の振興 (2) 観光ホームページの充実 (3)「食」をテーマとした情報発信の強化 (4) 特色あるイベント情報の全国発信 (5) 体験交流型観光の推進 (6) 須川・真湯・祭時地区の情報発信と誘客推進 (7) 大型観光キャンペーン等と連動した「旬」の情報発信機能の充実 (8) 北海道を対象とした教育旅行の誘客推進
3 観光に関する受け入れ態勢の整備	❶おもてなし意識の醸成とガイドの確保 ❷観光施設、公共施設等の整備 ❸観光ルートの整備 ❹二次交通網の構築 ❺国際会議等誘致方策の検討	(1) 市民主体のおもてなし意識の醸成 (2) ボランティアガイドの育成 (3) 看板などの観光案内機能の充実 (4) 広域観光ルートの開発 (5) 二次交通網の充実 (6) 国際会議等誘致方策の検討
4 広域連携の推進	❶行政区域の枠を越えた連携 ❷地域資源の相互利用	(1) 広域観光を進めるための関係市町村との連携促進 (2) 姉妹都市等との交流の強化 (3) 広域連携組織への参画
5 インバウンド誘客の推進	❶外国人に対する情報発信の強化 ❷外国人観光客の受入環境の整備 ❸国際会議等誘致方策の検討	(1) 海外への情報発信の強化 (2) 外国人観光客の受入意識の醸成 (3) 外国人観光客の受入環境の充実

資料編

観光資源一覧表
（地域別）

事業実施状況一覧
（平成24年度～平成28年度）

観光資源一覧表（地域別）

地　域	種　　別	項　　目	名　　称
一関	自然観光資源	山・高原	栗駒国定公園栗駒山
		ハイキング	栗駒山トレッキング
			猿跳古道
		川・渓流・湖沼	磐井川
			北上川
			厳美渓
			昭和湖
		滝	霜後の滝
			龍神穴滝
		ダム	矢櫃ダム
		清水	ぶなの恵み
一関	人文観光資源	寺社・仏閣	三十三観音札所
			祥雲寺
			配志和神社
			舞草神社
			円満寺
			瑞川寺
			長昌寺
			願成寺
			駒形根神社
		公園	磐井川緑地
			釣山公園
			浦しま公園
			厳美公園
			一関運動公園
			蘭梅山いこいの森
			一関遊水地記念緑地公園
			一関水辺プラザ
		田園風景	骨寺村荘園遺跡
			照井堰用水（世界かんがい施設遺産）
			金山棚田
		史跡など	大槻三賢人像
			旧沼田家武家住宅
			藩主・田村邸裏門跡
			高平小五郎像・出生の地
			阿部美樹志顕彰碑
			建部清庵像・生誕の地
			大槻玄沢邸跡
			松尾芭蕉二夜庵跡
			野村純馬の碑
			長沼守敬生誕の地
			横綱宮城山の碑
			佐藤庄太郎像
			大槻文彦胸像
			泥田廃寺跡
			迫街道一里塚
			豊吉の墓
		まち並み	大町
			地主町
			錦町水天宮通り
			歴史の小道
		民俗芸能	神楽
			鶏舞
			行山流舞川鹿子躍
			時の太鼓
		祭り・イベント	一関春まつり
			岩手県南・宮城県北神楽大会

地　域	種　　別	項　　目	名　　称
一関	人文観光資源	祭り・イベント	いちのせき賑わい「ど市」
			栗駒山山開き
			睦美会展
			みちのくあじさいまつり
			一関夏まつり
			岩手県南・宮城県北民謡大会
			磐井川川開き花火大会
			全国地ビールフェスティバルin一関
			一関国際ハーフマラソン
			一関地方産業まつり商工祭・農業祭
			全国ご当地もちサミット
			一関・平泉バルーンフェスティバル
			一ノ関駅周辺クリスマスイルミネーション
			骨寺村荘園中尊寺米納め
			わんこもち大会
			一歳児の歩き初め会
		朝市	日曜朝市
		食文化（野菜・米）	ひとめぼれ
			曲りねぎ
			南部一郎かぼちゃ
			土垂里芋
		食文化（果物）	りんご
			いちご
			ブルーベリー
			ぶどう
		食文化（加工品・酒）	凍りとうふ
			精茶百年
			手作りアイスクリーム
			いわて蔵ビール
			清酒（関山・世嬉の一）
			天明三年手作り味噌
		食文化（肉）	手作りハム・ソーセージ
			いわて南牛
		食文化（菓子）	亀の子せんべい
			ごま摺り團子
			ずんだ餅
			名代厚焼せんべい
			かっこうだんご
			いつくしだんご
			滝見だんご
			（献上・伝承）田むらの梅
		食文化（郷土料理）	もち料理
			芋の子汁
			野菜はっと
			凍豆腐
		工芸品	雪やけこけし
			染物
		その他	松尾芭蕉と奥の細道
一関	観光施設	博物館	一関市博物館
			世嬉の一酒の民俗文化博物館
			祥雲寺田村記念館
		記念館	一関の年輪館
		キャンプ場	須川野営場
			真湯野営場
			厳美オートキャンプ場
			真湯コテージ
		温泉	須川温泉
			真湯温泉
			祭畤温泉

地　域	種　　別	項　　目	名　　称
一関	観光施設	温泉	矢びつ温泉
			厳美渓温泉
			宝竜温泉
			山桜　桃の湯
			イチノセキ温泉
		野外活動施設	真湯ジャブジャブ広場
			須川ビジターセンター
			健康の森セミナーハウス
		体験施設・体験	一関ミート（ソーセージ製造見学・腸詰体験）
			佐々木製菓（手焼せんべい体験）
			ポラーノ（アイスクリーム手作り体験）
			世嬉の一酒造（郷土食の体験、地ビール工場見学）
			本寺ブルーベリー生産組合（ブルーベリー摘み・ジャム作り）
			松栄堂（製造見学）
			サハラガラスパーク（ガラス品製作体験）
			両磐酒造（製造見学）
			華匠苑（製造見学）
			あすみ工房（陶芸体験）
		観光型農園	みちのくあじさい園
			厳美渓いちご畑
			本寺ブルーベリー園
			厳美観光ぶどう園
		農家レストラン	蔵ピノキオ
			農家民宿レストラン　あんすろーじ
		レジャー	祭畤（まつるべ）スノーランド
		物産品店	道の駅厳美渓
			サハラガラスパーク
			新鮮館おおまち
			厳美渓レストハウス
			骨寺村荘園交流館「若神子亭」
		宿泊施設	ホテルサンルート一関
			蔵ホテル一関
			一関グリーンホテル
			田中屋旅館
			東横イン一関駅前店
			@アットホテル駅前店
			ベリーノホテル一関
			@ビジネスホテル一関三関店
			ビジネスホテルSATOU
			花仙旅館
			一関プラザホテル
			ホテルルートイン一関インター
			チサンイン岩手一関インター
			旅苑松本
			和風ビジネス旅館やなぎ
			旅館ひらの屋
			山桜　桃の湯
			かんぽの宿一関
			いつくし園
			渓泉閣（休業中）
			真湯コテージ
			須川高原温泉
			祭畤温泉かみくら游山の庄
			ペンションいーとこ
			農家民宿レストラン　あんすろーじ
		ゴルフ場	一関カントリークラブ
		総合施設	一関市総合体育館（ユードーム）
			一関市産業教養文化体育施設（アイドーム）
		教育施設	北上川学習交流館あいぽーと

地　域	種　　別	項　　目	名　　称
一関	観光施設	教育施設	骨寺村荘園交流館
		その他	ジャズ喫茶ベイシー
			一関ハリストス正教会
			祭畤大橋「展望の丘」
			栗駒・焼石ほっとライン
花泉	自然観光資源	山・高原	高倉山
		ハイキング	悪法師堤（松林・遊歩道）
		川・渓流・湖沼	蒲沢堤
			刈流沢渓流
			金流川
		滝	刈流沢の滝
花泉	人文観光資源	寺社・仏閣	大祥寺　奥州三十三観音霊場
			六角堂　奥州三十三観音霊場
			宝持印　新山観音堂　奥州三十三観音霊場
			徳寿院　奥州三十三観音霊場
		公園	花泉運動公園
			紫舘公園
			刈流沢の滝渓流公園
			清水公園
		田園風景	須川パイロット
		史跡	千葉胤秀旧家
			貝鳥貝塚
		まち並み	金沢宿場町
		民俗芸能	永井地区郷土芸能
			奈良坂神楽・鶏舞
			白浜神楽
			大門神楽
			花泉沃野太鼓
			花泉保育園二桜太鼓
			老松先人顕彰太鼓
			老松大黒舞
		祭り・イベント	花泉互市（春・秋）
			花と泉の公園ぼたん・しゃくやくまつり
			日本一のもちつき大会
			金沢八幡神社大名行列
			花泉マラソン大会「瀬古利彦杯」
		朝市	ふれあい野菜市（ＪＡ）
		食文化（野菜・米）	なす
			古代米
			ひとめぼれ
		食文化（加工品・酒）	味噌
			醤油
			古代米
			清酒
		食文化（菓子）	くるみおこし
			いずみ餅
		食文化（郷土料理）	もち料理
		食文化（果物）	りんご
			梨
			洋ナシ
		食文化（肉）	いわて南牛
		工芸品	高鞍窯・陶芸
花泉	観光施設	記念碑	芭蕉行脚の碑（３箇所）
		キャンプ場	刈流沢の渓流公園キャンプ場
			花泉運動公園キャンプ場
		体験施設	花と泉の公園（フラワークラフト、プリザーブドフラワー、テラリューム）
		滞在型農園	農家民泊（花泉町ＧＴ協議会･いちのせきニューツーリズム協議会）
		農家レストラン	夢見る老止（おとめ）の館
		総合施設	総合福祉センター

地　域	種　　別	項　　目	名　　称
花泉	観光施設	物産品店	古代米おりざ
		宿泊施設	阿部旅館
			辰巳旅館
			佐藤屋旅館
			花泉宿泊交流研修施設（花夢パル）
		ゴルフ場	南いわてカントリークラブ
		教育施設	花夢パル
		その他	花と泉の公園（ぼたん園・ベゴニア館）
			りんご狩り
大東	自然観光資源	山・高原	阿原高原
			室根高原
			原台山
			蓬菜山
			御殿山
		ハイキング	滑岩の遊歩道
		川・渓流・湖沼	砂鉄川
			滑岩
		滝	小黒滝
			湯王の滝
		清水	猿沢権現水（愛宕権現水）
		その他	猿沢石割松
			ほうきかや
大東	人文観光資源	寺社・仏閣	観福寺
			摺沢八幡神社
			東川院
			天狗田神社
			興田神社
			金烏神社
			長泉寺
			大原八幡神社
			熊野神社
			羽黒修験道場
		田園風景	山吹棚田（棚田百選）
		史跡	山吹城址
			佐藤秀蔵、良平の胸像
		民俗芸能	行山流小沼鹿踊
			猿沢峠山伏神楽
			田植踊り
		祭り・イベント	摺沢水晶あんどん祭り
			大原だるま祭り
			興田神社蘇民祭
			大原先人行列
			大東大原水かけ祭り
			京津畑「食の文化祭」
		食文化（野菜・米）	大東町産有機栽培「ひとめぼれ」
		食文化（果物）	大東りんご
		食文化（加工品・酒）	なたね油
			えごま油
			やまぶどうジュース「徳林」
			砂鉄川（岩手銘醸玉の春工場）
			手前みそ
			梅干し
		食文化（菓子）	かほう
			栗饅頭
			しもまんじゅう
			うすかわまんじゅう
		工芸品	秀衡塗
		その他	しいたけ（乾ししいたけ）
			大東産桑の葉茶（いわいの里ふるさと作り研究会）

地　域	種　　別	項　　目	名　　称
大東	人文観光資源	その他	中川そば（上中川そば・なたね生産組合）
			高キビ粉・うどん（高きび生産組合）
			モロヘイヤうどん
大東	観光施設	博物館	芦東山記念館
		記念碑	岳麓書院（寺子屋）
			畜産振興の碑（馬検場跡地）
			松尾芭蕉の碑
		キャンプ場	アストロ・ロマン大東キャンプ場
		野外活動施設	アストロ・ロマン大東
		体験施設	たたら製鉄（ほっぱの会）
		農家レストラン	農家レストランおふくろ
			ばぁ～ばのれすとらん“てご舎”
			やまあい工房
		レジャー	室根高原ふれあい牧場（乗馬）
			アストロ・ロマン大東（マウンテンバイク）
		物産品店	(有)丸三漆器　　漆器
			村惣菓子店　　菓子
			やまに菓子店　菓子
			まんじゅう屋　菓子
			三協こんにゃく店　　蒟蒻加工
			産直山ちゃん
			産直ふるさと大東
		宿泊施設	大東ふるさと分校
			京津畑交流館「山がっこ」
千厩	自然観光資源	ハイキング	ふれあい花壇と庭の花めぐり
		その他	夫婦石
			鞍掛石・休み石
			畑ノ沢鉱泉　たまご湯
			道標（関代・葉山・沖中・町下）
			花壇(ヒルトップ･13区自治会･千田庭･千葉庭･永澤庭･加藤庭･仏坂自治会)
			沿道花壇（駒場自治会・清田交通安全母の会）
			庭園（熊谷庭）
			種蒔桜（樹齢推定400年）
			糸ヒバ（通称・さかさヒバ）
			神中の桂（樹齢推定350年）
			一杯清水
千厩	人文観光資源	寺社・仏閣	松沢神社（金山一揆集結の地）
			松沢神社（梵鐘）
			大光寺（木造薬師如来立像）
			林ノ沢観音堂
			八幡神社本殿
			永澤寺（石仏三十三観音像）
			桜森神社（圓通、木造薬師如来立像）
			たばこ神社
			鷲嶺庵
			吉川寺
		公園	天王山公園
			飛ヶ森森林公園
			愛宕児童公園
			舘山公園
		史跡	岩間一里塚
			鼠沢七里塚
		民俗芸能	愛宕花相撲
			伊勢神楽
			おいとこ踊り
			鬼剣舞
			田植え踊り
			鶏舞
			小梨打ちばやし

地　域	種　　別	項　　目	名　　称
千厩	人文観光資源	民俗芸能	奥玉打ちばやし
		祭り・イベント	せんまや夜市
			千厩夏まつり
			夫婦石観光まつり
			みちのく千厩赤ちゃん相撲大会
			せんまやひなまつり
			千厩農商工まつり
			匠の祭典
			千厩町産業文化祭
			黄金の国陶芸展
			新浪神社例大祭
			松澤神社例大祭
			八坂神社例祭
			秋葉山神社例祭
			白幡神社特別大祭
		食文化（野菜・米）	寒締め白菜
			ひとめぼれ
			エコファーマートマト
			ピーマン
			ワーコム米
		食文化(果物)	りんご
		食文化（加工品・酒）	ねり梅
			梅干し
			えごま油
			えごま
			清酒　玉の春
			米焼酎
			甘酒
			桑茶
		食文化（肉）	いわて南牛
		食文化（菓子）	ずんだ餅（ずんだ大福）
			ごま大福
			夫婦石ロール
			夫婦石まんじゅう
			駒レーズン
			茶まん
			地酒ケーキ　玉の春
			せんまや物語
			しいたけサブレー
			駒サブレ
			アマランサスサブレー
		食文化（郷土料理）	はっと
			がんづき
			じゅうねもち
			ずんだもち
			麦芽あめ
		工芸品	千厩紬
			太鼓・木彫面
			カマバタ織り
			竹細工
			金・銀製品
			装飾絵馬
			馬の置物・馬のペーパーウエイト
			陶器（都澤）
		その他	籠目製麺工場（桑うどん・桑冷麺等）
			白藤伝説～義経の愛馬が眠る場所～
			創作太鼓
			カマ神様
			小菊・花卉

地　域	種　　別	項　　目	名　　称
千厩	観光施設	美術館	熊谷美術館
		記念碑	菅秀才精霊塔
			大夫黒顕彰碑・村上元三文学碑
			波多野精一博士記念碑
			西村聴雨句碑
		キャンプ場	飛ヶ森キャンプ場
			黄金山キャンプ場
		野外活動施設	飛ケ森ディスクゴルフコース
		観光型農園	太陽農場（りんご狩り）
		物産品店	都澤
			(有)関根太鼓店
			(有)織鶴
			しばた菓子店
			さかいや製菓店
			まちの駅新町ＪａＪａ馬プラザ
			文栄堂
			千厩 酒のくら交流施設（旧横屋酒造・佐藤家住宅）
			ニッコー・ファインメック
			北村商店
			熊谷屋
			喜久屋
		その他	みなみ交流センター
			千厩 酒のくら交流施設（旧横屋酒造・佐藤家住宅）
			せんまや街角資料館（旧専売局千厩葉煙草専売所）
			村上家住宅
			千厩 アイスアリーナ
			まっちゃん工房
東山	自然観光資源	山・高原	束稲山
			唐梅館
			丈競山
		ハイキング	唐梅館遊歩道
		川・渓流・湖沼	砂鉄川
			山谷川
			中通川
			猿沢川
		滝	藤壺の滝
			紅葉ヶ滝
		清水	磐井清水
			大清水
		その他	宗松寺杉並木
			猊鼻渓
			幽玄洞
			鳶ヶ森層の化石類
			唐梅館公園の化石類
			横沢金鉱跡
			矢ノ森金鉱跡（藤壺の滝）
東山	人文観光資源	寺社・仏閣	安養寺
			宗松寺
			観林寺
			善龍寺
			遠応寺
			熊野神社
			早間神社
			火産霊神社
			山神社
			保呂羽三嶽神社
			新山神社
		公園	唐梅館総合公園（体育館・野球場・テニスコート・プール・多目的グラウンド・パークゴルフ場・花遊園・クラブハウス）
		道路景観	石灰岩採掘現場

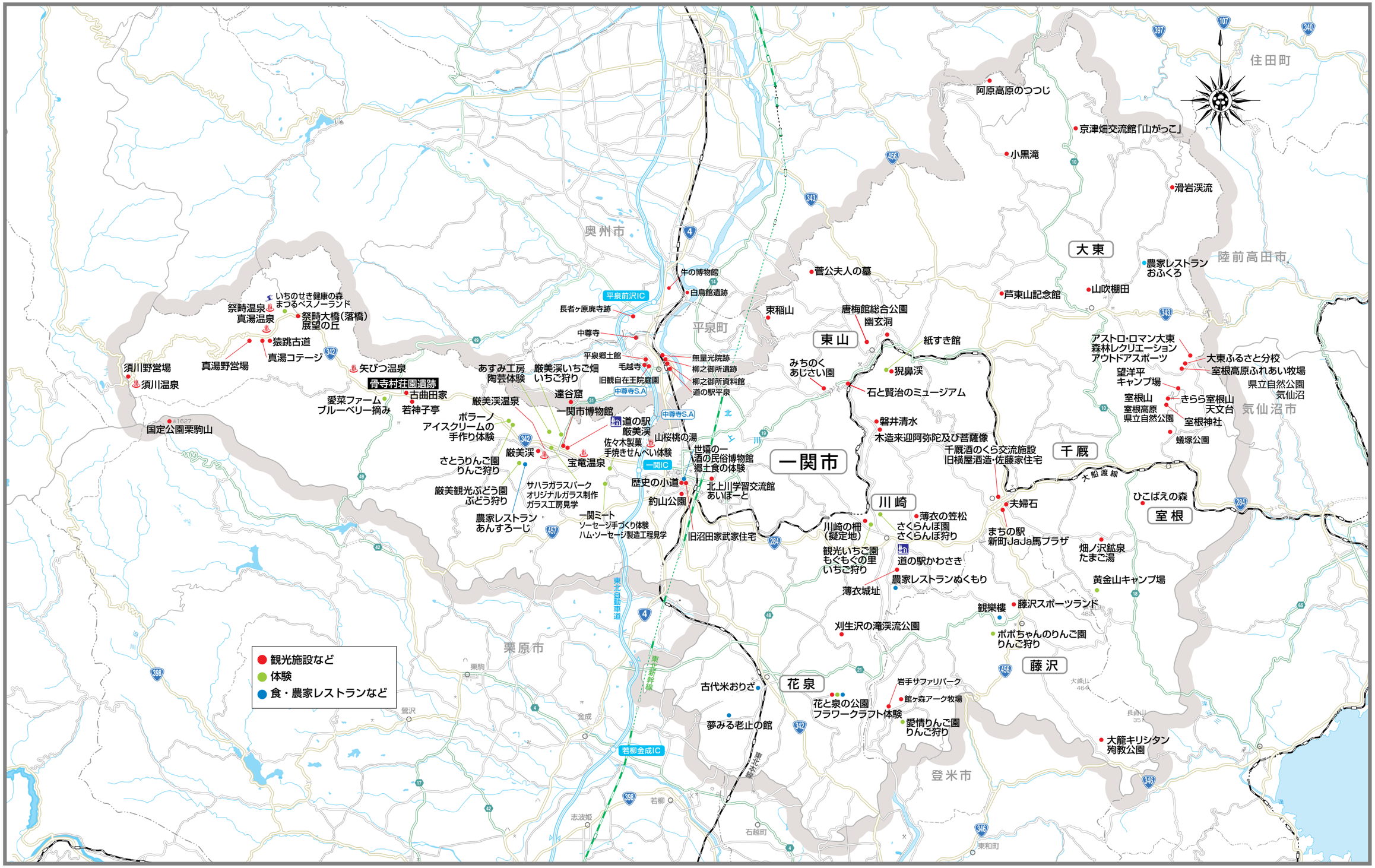
地　域	種　　別	項　　目	名　　称
東山	人文観光資源	道路景観	石灰関連工場
		史跡	金売吉治屋敷跡
			金山遺跡（横沢・藤壺の滝）
			太夫黒誕生の地
			菅公夫人の墓
			木造来迎阿弥陀及び菩薩堂
			子安観音・マリア観音
			頼朝の墓
			切支丹処刑場
		民俗芸能	岩ノ下獅子舞
			行山流山口派大木鹿踊
			大木神楽
			里前神楽
			夏山神楽
			磐井里神楽
			げいび大獅子太鼓の会
		祭り・イベント	唐梅館絵巻
			磐井清水若水送り
		食文化（野菜・米）	長ねぎ
		食文化（果物）	りんご
		食文化（加工品・酒）	清流漬
			なんばん漬
			しそ漬
			豆腐
		食文化（肉）	いわて南牛
		食文化（菓子）	獅子が鼻
			田舎まんじゅう
			ゆべし
			きんつば
			味噌パン
		食文化（郷土料理）	秋刀魚のぬた・すす漬け
			凍餅
			凍豆腐
			凍大根
			切り干し大根
			餅料理(ショウガ、ずんだ、じゅうね、納豆、豆腐餅、小豆、クルミなど)
			はっとう、あずきばっとう、カニばっとう、かぼちゃばっとう
			げんべだ
			味噌焼き
			鮎の塩焼き
			団子
		工芸品	紙布織製品（財布、名刺入れ、印鑑入れ、コースター等）
			かまばた織（財布、名刺入れ、印鑑入れ、コースター等）
			草木染（財布、名刺入れ、印鑑入れ、コースター等）
			東山和紙
			和紙面
			紫雲石硯、紫雲石ペーパーウエイト、筆置き
		その他	石灰製品（消石灰・生石灰・砕石等）
			木造来迎阿弥陀及び菩薩像(二十五菩薩堂)
			松川八景
			矢ノ森八景
			石灰資源
東山	観光施設	記念館	石と賢治のミュージアム（太陽と風の家・旧東北砕石工場）
			青柳倉記碑
			宮沢賢治詩碑（新山公園）
		キャンプ場	唐梅館キャンプ場
		体験施設	紙すき館
		物産品店	紙すき館
			パティスリーフジ

地　域	種　　別	項　　目	名　　称
東山	観光施設	物産品店	菓子処　東山軒
			産直センターひがしやま　季節館
			げいびレストハウス
		総合施設	東山総合体育館
			東山地域交流センター
		宿泊施設	ひがしやま観光ホテル
			車屋
			かみや旅館
			かぢや別館　らまっころ山猫宿
		教育施設	石と賢治のミュージアム（太陽と風の家・旧東北砕石工場）
		その他	産直センターひがしやま　季節館
室根	自然観光資源	山・高原	室根山
			矢越山
			大森山
			室根高原県立自然公園
			室根高原ふるさと自然公園国民休養地
		川・渓流・湖沼	大川（太田川）
室根	人文観光資源	寺社・仏閣	室根神社
		公園	蟻塚公園
			散策路公園
		民俗芸能	うちばやし
			神楽
		祭り・イベント	田植え踊り
			よさこいソーラン（桜室連）
			室根神社特別大祭
			室根山つつじまつり
			森は海の恋人植樹祭
			室根山山開き
			一関市むろね産業文化祭
			むろね夏まつり
		朝市	こっとんこ市
		食文化（野菜・米）	矢越カブ
		食文化（果物）	りんご
		食文化（加工品・酒）	あまちゃづる茶
			むろねーじゅワイン
			手づくり味噌
			高原なんばん
		食文化（肉）	いわいどり（から揚げ・焼き鳥等加工品含む）
			ハラミ焼（いちのせきハラミ焼なじょったべ隊）
		食文化（菓子）	白あんぱん
			つりがね最中
			きらら
		工芸品	羽毛細工
			太鼓
			木工品
		その他	室根石
			水車村こっとんこ
			鮭の放流
室根	観光施設	博物館	きらら室根山天文台
			室根山ふるさと自然公園センター
		キャンプ場	望洋平キャンプ場
		農家レストラン	せいかえし
		レジャー･アミューズメント	パラグライダー（スカイスポーツ）
		総合施設	室根きらめきパーク
		物産品店	むろねっこ（㈱室根総合開発）
			旬菜館
		その他	室根山展望台
			植樹体験学習
川崎	自然観光資源	山・高原	石蔵山

地　域	種　　別	項　　目	名　　称
川崎	自然観光資源	川・渓流・湖沼	砂鉄川
			北上川
		その他	布佐の鍾乳洞
			ホタル観察（風呂川）
川崎	人文観光資源	寺社・仏閣	最明寺
		史跡	石塔婆（最明寺）
			往還塚
			薄衣城跡
			河崎の柵跡戯定地
		民俗芸能	布佐神楽
		祭り・イベント	かわさき夏まつり花火大会
			北上川流域交流「Ｅボート大会」
		食文化（野菜・米）	つるくび（幻の里芋）
			ほどいも（アピオス）
			メダカ米
		食文化（果物）	りんご
			いちご
		食文化（菓子）	がんづき
			金時まんぢゅう
		食文化（郷土料理）	カニばっと
			きりむぎ
			芋の子汁
		その他	赤柴の手づくり豆腐
			ごぼう茶
			薄衣の笠松
川崎	観光施設	野外活動施設	石蔵山林間広場
		観光型農園	郷の沢観光りんご園（りんごもぎ取り体験）
			観光いちご園　もぐもぐの里
			サクランボ園
		農家レストラン	農家レストランぬくもり
		総合施設	北上川水辺プラザ
		物産品店	道の駅かわさき「川の灯」
			湖月堂
		その他	北上大橋
藤沢	自然観光資源	山・高原	保呂羽山
			献上山
			高烏兎山
			館ヶ森高原
		川・渓流・湖沼	北上川
			黄海川
		ダム	相川ダム（まさぼう湖）
			金越沢ダム（ほろわ湖）
			千松ダム（せんまつ湖）
藤沢	人文観光資源	寺社・仏閣	保呂山神社（女人禁制の名山）
			円融寺（芭蕉の句碑）
			藤勢寺（阿弥陀如来立像）
		公園	ニコニコパーク
			ちびっこウォーターフロント親水公園
		史跡	大籠キリシタン史跡
		民俗芸能	本郷神楽
			増沢神楽
			大籠神楽
			徳田田植え踊り
			鶏舞
			創作太鼓（二日町祭神太鼓）
		祭り・イベント	藤沢野焼祭
			館ヶ森収穫祭
			チューリップ祭り
			ラベンダー祭り

地　域	種　　別	項　　目	名　　称
藤沢	人文観光資源	祭り・イベント	まさぼう湖祭り
			マーチングフェスティバル
			館ヶ森風祭り
			一関藤沢市民劇場
			全日本モトクロス選手権大会
		食文化（野菜・米）	ひとめぼれ
			EMかんきょう安心米（懸石農産）
			ピーマン
			マコモダケ
			曲田大根
		食文化（果物）	りんご
			いちご
		食文化（加工品・酒）	ラズベリージャム、ブルーベリージャム
			深萱の昔とうふ
			りんごジュース
			干し芋（ムカエあぐりらんど）
			昔たまご
			いちごプリン（唐沢いちご農園）
			ピーマン糀味噌
			ふかひれラーメン（丸光製麺）
			スモーク製品（道楽亭）
			縄文桑茶
			縄文桑うどん
			藤沢納豆
			あんちゃんのどぶろく
		食文化（肉）	館ヶ森手づくりハム・ソーセージ
			館ヶ森高原豚
			いわて南牛
		食文化（菓子）	ふじまんじゅう（吉禎菓子舗）
			キリシタンの里（青葉屋）
		食文化（郷土料理）	はっとう
			みょうがの葉焼き
			果報だんご
		工芸品	陶器（藤沢焼、大籠焼、増沢焼）
			竹炭製品（竹炭工房　ひなた）
			カマバタ織り
		その他	へちま化粧水（マーナーコスメチックス）
			小菊
藤沢	観光施設	博物館	大籠キリシタン殉教公園資料館
		体験施設・体験	陶芸センター（陶芸体験）
			館ヶ森アーク牧場（ソーセージ作り体験、ハーブクラフト作り、農業研修受入等）
			愛情りんご園、ポポちゃんのりんご園（りんご狩り）
			岩手サファリパーク（動物の生態観察）
		物産品店	館ヶ森ファームマーケット
		宿泊施設	館ヶ森高原ホテル
			農家民宿　観樂樓
			農家民宿　ほろはの家
		総合施設	ニコニコパーク（海洋センター、すぱーく藤沢、ニコニコドーム）
		その他	藤沢スポーツランド（モトクロス場）

一関市の主な観光資源


観光施設など
体験
食・農家レストランなど
一関市
大東
東山
千厩
川崎
室根
藤沢
花泉
平泉町
奥州市
栗原市
登米市
住田町
陸前高田市
気仙沼市
平泉前沢IC
一関IC
若柳金成IC
中尊寺S.A
道の駅平泉
道の駅厳美渓
道の駅かわさき
骨寺村荘園遺跡
牛の博物館
白鳥館遺跡
長者ヶ原廃寺跡
中尊寺
平泉郷土館
毛越寺
旧観自在王院庭園
無量光院跡
柳之御所遺跡
柳之御所資料館
いちのせき健康の森
まつるべスノーランド
祭時温泉
真湯温泉
祭時大橋（落橋）
展望の丘
猿跳古道
真湯コテージ
真湯野営場
須川野営場
須川温泉
矢びつ温泉
国定公園栗駒山
古曲田家
若神子亭
愛菜ファーム
ブルーベリー摘み
あすみ工房
陶芸体験
厳美渓いちご畑
いちご狩り
厳美渓温泉
達谷窟
一関市博物館
ポラーノ
アイスクリームの
手作り体験
厳美渓
さとうりんご園
りんご狩り
宝竜温泉
佐々木製菓
手焼きせんべい体験
山桜桃の湯
世嬉の一
酒の民俗博物館
郷土食の体験
北上川学習交流館
あいぼーと
歴史の小道
釣山公園
厳美観光ぶどう園
ぶどう狩り
サハラガラスパーク
オリジナルガラス制作
ガラス工房見学
農家レストラン
あんすろーじ
一関ミート
ソーセージ手づくり体験
ハム・ソーセージ製造工程見学
旧沼田家武家住宅
菅公夫人の墓
束稲山
唐梅館総合公園
幽玄洞
紙すき館
みちのく
あじさい園
猊鼻渓
石と賢治のミュージアム
磐井清水
木造来迎阿弥陀及び菩薩像
千厩酒のくら交流施設
旧横屋酒造・佐藤家住宅
夫婦石
薄衣の笠松
川崎の柵
（擬定地）
さくらんぼ園
さくらんぼ狩り
観光いちご園
もぐもぐの里
いちご狩り
農家レストランぬくもり
薄衣城址
まちの駅
新町JaJa馬プラザ
刈生沢の滝渓流公園
観樂樓
藤沢スポーツランド
ポポちゃんのりんご園
りんご狩り
古代米おりざ
夢みる老止の館
花と泉の公園
フラワークラフト体験
岩手サファリパーク
館ヶ森アーク牧場
愛情りんご園
りんご狩り
大籠キリシタン
殉教公園
阿原高原のつつじ
京津畑交流館「山がっこ」
小黒滝
滑岩渓流
農家レストラン
おふくろ
芦東山記念館
山吹棚田
アストロ・ロマン大東
森林レクリエーション
アウトドアスポーツ
望洋平
キャンプ場
室根山
室根高原
県立自然公園
きらら室根山
天文台
室根神社
大東ふるさと分校
室根高原ふれあい牧場
県立自然公園
気仙沼
蟻塚公園
ひこばえの森
畑ノ沢鉱泉
たまご湯
黄金山キャンプ場
大船渡線
東北自動車道
東北新幹線
JR大船渡線
0.0
2.5
5.0
7.5
10.0 km
1:200000

事業実施状況一覧

（平成24年度～平成28年度）

基本方針	重点的取り組み	事業名	事業実績【平成24～28年度】	【評価】および【課題】
１．平泉との連携強化による一関ブランドの発信				
	１．平泉と厳美渓、猊鼻渓など主要観光地を結ぶルートの情報発信と交通機関の利用促進	１．平泉・一関・奥州周遊パンフレット作成事業	世界遺産連携推進実行委員会によりバス、自転車等の交通機関情報、飲食店、土産物店、宿泊施設等の情報及び割引特典情報等を掲載したパンフレットを作成し、平泉と厳美渓、猊鼻渓を結ぶ観光ルートの定着を図った。 ・平成24年度　２市１町周遊エリアガイドパンフレット　45,000部 ・平成25年度　バスと自転車で巡る　いわて平泉エリアの旅パンフレット　45,000部 ・平成26年度　バスと自転車で巡る　いわて平泉エリアの旅パンフレット　45,000部 ◇平泉・一関・奥州周遊（Ｈ・Ｉ・Ｏ）パンフレット ・平成27年度　便利でお得なエコの旅。平泉、一関・奥州周遊パンフレット　30,000部 ・平成28年度　便利でお得なエコの旅。平泉、一関・奥州周遊パンフレット　40,000部	【評価】 平泉と厳美渓、猊鼻渓を結ぶ観光ルートの定着が図られたことで、年間を通じて、平泉の世界遺産を活用しながら特色ある観光資源を全国に情報発信することができた。 【課題】 今後はさらにパンフレットを活用した広域的な情報発信のほか、ホームページ等を活用した取組が必要である。
		２．一ノ関駅総合交通案内事業	一関観光案内所及び一ノ関駅臨時案内所等において、駅利用者等の利便性向上と公共交通機関の利用促進を図った。 一ノ関駅を基点として「平泉」、「厳美渓」、「猊鼻渓」までの鉄道時刻・運賃及び路線バス時刻・運賃、定期観光バス時刻・運賃を掲載した「一ノ関駅総合交通案内チラシ」を春と秋の２回作成を基本とし、ダイヤ改正ごとに修正した。	【評価】 一ノ関駅を基点として「平泉」、「厳美渓」、「猊鼻渓」までの鉄道時刻・運賃及び路線バス時刻・運賃、定期観光バス時刻・運賃を掲載した「一ノ関駅総合交通案内チラシ」を発行することで、駅からの交通手段が１つに集約され、選択肢が広がったことで駅利用者等の利便性が向上するとともに、公共交通機関の利用促進へのＰＲにつながった。 【課題】 公共交通機関利用のＰＲは出来たが、必ずしも利便性がよいとは言えず、タクシーやレンタカーを含めた案内が必要である。
	２．一関市内と沿岸地域を結ぶルートを活用した旅行商品造成	１．沿岸地域を結ぶ観光ルート情報発信事業	沿岸被災地の災害復興にも寄与すべく、本市から沿岸地域に向かう観光ルートの情報発信を図った。 ・平成25年度　国道284号・国道343号滞在型パンフレット　18,000部 黄金王国夢紀行パンフレット　12,000部 ・平成26年度　国道342号（花泉～石巻）滞在型パンフレット　18,000部 ・平成27年度　国道342号（花泉～石巻）滞在型パンフレット　18,000部	【評価】 本市から沿岸被災地へ向かう場合が多かったことから、観光ルートのパンフレット作成による観光ルートの情報発信を図り、結果として被災地復興も寄与することができた。 【課題】 復興を遂げるにつれ、沿岸地域での観光やイベントも回復してきたことで、当市を素通りして沿岸に向かう可能性が高まっていることから、今後はさらに沿岸との観光連携も強化していく必要がある。
		２．旅行商品の造成	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会により、市内と沿岸地域を結ぶ旅行商品の造成を図った。 ・平成25年度　一関市（千厩酒のくら交流施設）～気仙沼市～南三陸町コース ・平成26年度　仙台市内各地～千厩酒のくら交流施設～徳仙丈山～岩井崎～ 南三陸さんさん商店街～仙台市内各地 仙台駅～徳仙丈山～気仙沼お魚いちば～千厩酒のくら交流施設～仙台駅 一ノ関駅～リアス・アーク美術館～気仙沼市～かき小屋～気仙沼プラザホテル入浴～仙台駅 ・平成27年度　仙台駅～徳仙丈山～気仙沼お魚いちば～千厩酒のくら交流施設～仙台駅	【評価】 広域連携組織により旅行商品を造成することができた。 【課題】 市独自での旅行商品の造成はハードルが高く、検討を図っていく必要がある。
	３．骨寺村荘園遺跡の観光情報発信の強化と体験イベントの拡充	１．骨寺村荘園遺跡整備活用事業・骨寺村荘園遺跡世界遺産登録推進事業	来訪者への便益の向上とともに、遺跡の持つ価値の普及を図るための施設整備を行った。また、機会を捉えながら、普及啓発用品の作成や講演会の開催などを行うことにより、世界遺産の追加登録へ向けた遺跡の価値の普及・啓発を図った。 ◇施設整備 ・平成24年４月　若井原駐車場及び山王窟駐車場の供用を開始 ・平成25年４月　骨寺村荘園交流館「若神子亭」展示棟の開設 (管理棟に併せて、骨寺村ガイダンス運営協議会による指定管理) ・骨寺村荘園交流館入館者数 平成24年度　21,741人　平成25年度　22,772人　平成26年度　25,481人　平成27年度　28,376人 ◇普及啓発用品の作成 ・「骨寺村荘園遺跡散策マップ」の改定 ・パンフレット、ポスター、名刺台紙、解説パネルの増刷及び作成 ◇講演会の開催 ・平成24年度　「葛西氏と平泉－骨寺村絵図成立の背景－」 ・平成25年度　「天空の旅人が見た骨寺村荘園の魅力と価値」 ・平成26年度　「文化的景観の保存活用の課題と未来」 ・平成27年度　「レンズを通して見た骨寺荘園遺跡の魅力と価値」 ・平成28年度　「浄土信仰から読み解く骨寺村荘園遺跡」(3月18日開催予定)	【評価】 来訪者に対する案内拠点となる交流施設が全て整備され、荘園遺跡の持つ価値の普及が図られた。 普及啓発用品の作成や講演会の開催を行うことにより、世界遺産登録の追加登録へ向けた骨寺村荘園遺跡の価値の普及・啓発が図られた。 【課題】 世界遺産拡張登録に向け、地域はもとより市全体での更なる気運醸成と、国内外に広く荘園遺跡の価値をＰＲしていく必要がある。

基本方針	重点的取り組み	事業名	事業実績【平成24～28年度】	【評価】および【課題】
	３．骨寺村荘園遺跡の観光情報発信の強化と体験イベントの拡充	**２．ときめき世界遺産塾負担金**	関係３市町と連携し、地域の小中高生を対象に、平泉の文化遺産や世界遺産についての学習を通じ、郷土の歴史・文化についての理解を深めさせ、郷土の宝を守り育てる気運を醸成するため、現地学習会等を実施した。 ・開催実績 年度　H24　H25　H26　H27　H28 開催数　6回　6回　6回　6回　6回 参加人数（のべ）　79人　127人　183人　260人　133名	**【評価】** 児童生徒を対象とすることで将来の地域の宝を守り育て、魅力を発信できる人材の育成につながった。 **【課題】** 地域文化を守るリーダー育成に向け、学習会の内容の充実を図りつつ、継続的な実施に努める必要がある。
		３．世界遺産連携推進実行委員会負担金	岩手県と一関市、奥州市、平泉町及びその市町の観光協会と商工会議所（商工会）により組織された世界遺産連携推進実行委員会により、平泉の世界遺産を活用しながら、当地域の特色ある観光資源を全国に情報発信し、誘客の強化を図った。 ・平成24年度 ・出迎えイベント 期　日　４月１日～６月30日［一ノ関駅、平泉駅、前沢駅、水沢駅等］ 内　容　いわてＤＣ期間中、ＪＲ駅等で出迎えイベントを実施 ・平泉福興祭2012　～郷土芸能と食の祭典～ 期　日　６月16日～17日［平泉町　観自在王院跡］ 内　容　県内郷土芸能（本寺神楽出演）、沿岸地域からの出店、ご当地グルメ等 来場者数　約19,000人 ・平成25年度 ・「レゴブロック」で作った世界遺産展　PART-3 期　日　９月６日～30日 場　所　なのはなプラザ、歴史公園えさし藤原の郷、平泉文化遺産センター 入場者数　一関会場12,461人、奥州会場15,293人、平泉会場12,321人、計40,075人 ・平泉福興祭2013　～郷土芸能と食の祭典～ 期　日　10月13日～14日［平泉町　観自在王院跡］ 内　容　県内郷土芸能、沿岸地域からの出店、ご当地グルメ等 来場者数　約15,000人 ・平成26年度 ・平泉福興祭2014　～郷土芸能と食の祭典～ 期　日　６月21日～22日［平泉町　観自在王院跡］ 内　容　県内郷土芸能、沿岸地域からの出店、ご当地グルメ等 来場者数　約22,000人 ・世界遺産劇場Extra 期　日　６月21日～22日［平泉町　観自在王院跡］ 内　容　南部神楽フェスティバル、平泉歌舞伎 来場者数　約1,500人 ・平成27年度 ・平泉世界遺産祭2015 期　日　６月20日～21日［平泉町　観自在王院跡］ 内　容　世界遺産登録５周年プレイベント、「平泉世界遺産の日」制定１周年記念行事等 来場者数　約16,000人 ・平泉歌舞伎 期　日　８月28日［平泉町　観自在王院跡］ 内　容　片岡愛之助、尾上右近両氏による平泉歌舞伎（五條橋、吉野山） 来場者数　約2,118人 ・観光キャンペーン・誘客キャラバン （県人会観光キャンペーン〔東京都〕ほか、首都圏を中心に全国で20回のキャンペーンを実施） ・２市１町周遊旅行商品の造成 （平泉版「モバ旅ナビ」スタンプラリー、フリーマガジンを活用した周遊促進事業など） ・２市１町エリアガイドブックの作成 ・インバウンド対策（東北プロモーションin台湾2015での観光ＰＲなど） ・平成28年度 ・平泉世界遺産祭2016　～世界遺産ご当地キャラ大集合～ 期　日　７月２日～３日［平泉町　観自在王院跡］ 内　容　世界遺産登録５周年イベント、世界遺産ご当地キャラ大集合等 来場者数　約16,000人 ・伝統文化フェスティバル＆平泉歌舞伎 期　日　９月22日［平泉町　観自在王院跡］ 内　容　「平泉」世界遺産登録５周年記念　市川海老蔵特別講演（延年之舞、太刀盗人、連獅子） 来場者数　フェスティバル約500人、歌舞伎約2,500人 ・観光キャンペーン・誘客キャラバン （デンソー岩手フェア〔愛知〕、はこだてグルメサーカス〔北海道〕での観光PR及びAGT訪問を実施） ・２市１町周遊旅行商品の造成（「ナゾトキ宝探し」実施7/23～11/30） ・２市１町エリアガイドブックの作成（Ｈ・Ｉ・Ｏ）	**【評価】** 年間を通じて、平泉の世界遺産を活用しながら特色ある観光資源を全国に情報発信することができた。 **【課題】** “平泉”の世界遺産と骨寺村荘園遺跡の関わりを調和した形で事業展開する必要がある。

基本方針	重点的取り組み	事業名	事業実績【平成24～28年度】	【評価】および【課題】
	4．平泉とのゆかりを活かした情報発信	**1．平泉町と連携した事業**	平泉町と連携し事業を行い、観光情報の発信と誘客の促進に努めた。 ◇連携事業 ・観光地間二次交通整備事業 ・一ノ関駅屋上広告事業 ・一関・平泉バルーンフェスティバル事業 ・ご当地もちサミット事業 ・世界遺産連携推進実行委員会	**【評価】** 年間を通じて、平泉町と連携した事業を行うことで、世界遺産を活用しながら玄関口である当市をＰＲすることができた。 **【課題】** 事業内容等に工夫を図り、さらに平泉町との連携による取組が必要である。

2．観光資源の活用と情報提供の充実

	1．市内観光資源の再発見と街なか観光の振興	**1．祭り等に対する支援事業**	地域の活性化と観光客誘致のため、各地域での祭り等を支援し、観光関連産業の振興を図った。 ◇負担金・補助金額　（千円） （※全国地ビールフェスティバルin一関、せんまやひなまつりは市負担なし）	**【評価】** 少子高齢化が進む中、各地域の祭りが継続され、地域活性化の一助となっている。 **【課題】** 地元住民に限定され、観光客の誘客に結びついていない祭りが多い。誘客力の高い平泉や近隣との連携、情報発信方法など、市内外からの誘客を増やす工夫が必要である。
		2．観光振興事業	当市への観光客誘致を促進するため、ポスター、パンフレット等を作成配布するなどＰＲに努めた。 ◇パンフレット等の作成・主なパンフレットの設置場所 ［岩手県］　岩手県観光協会、近隣市町村観光協会、花巻空港、市内の主要観光地 ［宮城県］　近隣各市町村観光協会、仙台空港 ［東京都］　いわて銀河プラザ ［愛知県］　北東北三県名古屋事務所 ［大阪府］　北東北三県大阪事務所 ［福岡県］　北東北三県福岡事務所　など ・その他 物産・観光展等での配布のほか、 市内外で行われる会議、イベントでの配布 及び一般からの観光照会に応じ送付を行った。 ◇印刷部数 右表のとおり。 ◇各種宣伝広告 ・一ノ関駅構内への広告（改札口上部カラーコルトン、跨線橋広告新幹線エスカレー ター壁面看板広告、新幹線ホーム壁面パネル広告） ・一ノ関駅舎屋上への広告 （ようこそ一関温泉郷、「世界遺産」浄土の風薫る“平泉”） ・新聞、雑誌等を活用したＰＲ 新　聞　　岩手日報、岩手日日、朝日新聞　など 雑　誌　　岩手宝国、るるぶ、エリアｉ　など 地下鉄　　都営地下鉄中吊り広告（全国地ビールフェスティバル、もちサミット、大東大原水かけ祭り、一関・平泉バルーンフェスティバル） ・テレビコマーシャル等によりイベントのＰＲに努めた。 大東大原水かけ祭り、一関・平泉バルーンフェスティバル、一関夏まつり 全国地ビールフェスティバル ・ホームページ、フェイスブック等情報発信ツールによりＰＲに努めた。	**【評価】** 観光パンフレット等の配架については、市内コンビニエンスストア等の協力をいただき、店頭への配架が行われている。また、首都圏等の同様の店舗においても実施され、より観光客等が手に取りやすい環境ができてきている。 **【課題】** ホームページ、フェイスブック等による情報発信の迅速化及び多言語化が必要である。

名　　称	H24	H25	H26	H27	H28
賑わいど市	513	513	513	513	663
花泉互市	205	205	205	205	205
大東にぎわい市・元気市	426	426	426	426	426
せんまや夜市	869	569	569	569	569
一関夏まつり	8,400	8,400	8,400	8,400	8,400
花泉夏まつり	2,000	2,000	2,500	2,000	2,000
千厩夏まつり	960	800	800	800	800
むろね夏まつり	350	350	350	350	350
かわさき夏まつり	3,150	2,667	2,667	2,667	3,577
一関・平泉バルーンフェスティバル	6,694	8,887	12,000	15,300	15,300
一関の物産と観光展	4,392	4,392	4,392	4,392	4,392
一関地方産業まつり商工祭	3,126	3,225	3,163	6,424	6,438
むろね産業文化祭	694	659	659	659	659
一関春まつり	1,598	1,600	1,600	1,600	1,557
一ノ関駅周辺クリスマスイルミネーション	50	135	135	135	135
大東大原水かけ祭り	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
水晶あんどんまつり	360	360	360	360	360
夫婦石観光まつり	500	500	500	500	475
せんまや光のページェント	50	50	50	50	50
唐梅館絵巻	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
藤沢野焼祭	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
ご当地もちサミット	989	1,500	2,000	2,000	2,000
室根神社特別大祭		8,000		8,000	

パンフレット等作成部数

	名　　称	H24	H25	H26	H27	H28
1	一関市観光パンフレット	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000
2	ダイジェスト版	30,000	40,000	40,000	40,000	40,000
3	多言語版	20,000				
4	一関温泉郷パンフレット	25,000	25,000	25,000	38,000	25,000
5	猊鼻渓外国語パンフレット	30,000				
6	栗駒山登山マップパンフレット	10,000	10,000	10,000		
7	栗駒山山ガールパンフレット		10,000	10,000		
8	R284・R343滞在型パンフレット		18,000	18,000	8,000	10,000
9	R342滞在型パンフレット		18,000		8,000	10,000
10	R342滞在型(花泉～石巻)パンフレット			18,000		
11	学習型ツアーパンフレット		3,000			
12	一関・平泉「もち」パンフレット		※500	5,000	3,000	15,000
13	イチ、ニのサン!パンフレット※	16,000	16,000			
14	栗駒山麓周遊ガイドパンフレット※	15,000			15,000	
15	平泉・一関・奥州パンフレット※	40,000	50,000	45,000		
16	いちのせきさんぽパンフレット※	10,000	10,000	10,000		
17	厳美渓観光案内チラシ		50,000	10,000	50,000	50,000
18	もち木膳チラシ		1,000			
19	ポスター			1,500		
20	電車中吊りポスター	600				
21	イチ、ニのサン!ポスター※			200		
22	平泉・一関周遊チラシ				5,000	
23	観光オリジナルメモ帳			8,000	16,000	
24	観光オリジナルふせん				1,000	
25	ノベルティ用ポケットティッシュ	10,000	10,000		10,000	
26	観光資料送付用封筒			3,000	3,000	
27	観光資料送付用手提げ袋			20,000	10,000	

※印は、市の負担等により他の団体で作成したもの

基本方針	重点的取り組み	事業名	事業実績【平成24～28年度】	【評価】および【課題】
	1．市内観光資源の再発見と街なか観光の振興	**3．観光施設管理事業**	利用者の安全確保と一層の観光客の誘客を図るため、市内の以下の観光施設について維持管理を行った。 〔一関地域〕 ・栗駒山、瑞山（笊森）登山道 ・笊森避難小屋 ・昭和湖トイレ ・須川ビジターセンター ・須川ビジターセンター前駐車場（トイレ含む） ・須川野営場 ・須川専用水道 ・真湯温泉センター（指定管理者：㈱寿広） ・真湯野営場 ・真湯ゲート脇駐車場（トイレ含む） ・厳美渓駐車場（トイレ含む） ・東北自然歩道 〔花泉地域〕 ・花と泉の公園（指定管理者：花泉観光開発㈱） 〔大東地域〕 ・アストロ・ロマン大東（指定管理者：室根総合開発㈱） ・大東ふるさと分校（指定管理者：室根総合開発㈱） ・室根高原ふれあい牧場（指定管理者：室根総合開発㈱） 〔東山地域〕 ・猊鼻渓さわやかトイレ ・幽玄洞さわやかトイレ ・猊鼻渓公衆トイレ ・猊鼻渓水飲み場 〔室根地域〕 ・望洋平キャンプ場バンガロー（指定管理者：室根総合開発㈱） ・きらら室根山天文台 ・室根山展望台 ・蟻塚公園さわやかトイレ 〔藤沢地域〕 ・館ケ森高原ホテル（指定管理者：㈱MngeTakkエンタープライズ）	**【評価】** 多種多様な観光資源があり、これらの有効な活用が図られた。 **【課題】** 一部を除いた施設では老朽化が進み、修繕費用が増大している。また、国定公園内の管理等については、維持管理を行う人員の不足及び高齢化が懸案となっている。
		4．駅からハイキング事業	東日本旅客鉄道㈱が募集する駅を基点に地域の観光素材を歩いて楽しんでいただくイベントへ参画し、鉄道沿線地域の魅力の掘り起こしや街なか観光の振興を図った。 ・平成24年度　H24.4.1～6.30　城下町「一関」を訪ね歩く（起点駅：一ノ関駅） H25.2.23　春を呼ぶ「せんまやひなまつり」（起点駅：千厩駅） ・平成25年度　H25.4.1～6.30　城下町「一関」を訪ね歩く（起点駅：一ノ関駅） H25.6.9　室根山ヤマツツジを見ながら山登りコース（起点駅：折壁駅） H25.11.23　芭蕉・曾良と歩く、奥の舗装道（起点駅：一ノ関駅） （⇒一関学院高校による企画） H26.2.11～3.3　春を呼ぶ「せんまやひなまつり」（起点駅：千厩駅） ・平成26年度　H26.9.1～9.30　田村藩の城下町「一関」の歴史散策ハイキング（起点駅：一ノ関駅） H27.2.11～3.3　春を呼ぶ「せんまやひなまつり」（起点駅：千厩駅） ・平成27年度　H27.6.1～6.30　田村藩の城下町「一関」の歴史散策ハイキング（起点駅：一ノ関駅） H28.2.11～3.3　春を呼ぶ「せんまやひなまつり」（起点駅：千厩駅） ・平成28年度　H28.6.1～6.30　田村藩の城下町「一関」の歴史散策ハイキング（起点駅：一ノ関駅） H29.2.11～3.3　春を呼ぶ「せんまやひなまつり」（起点駅：千厩駅）	**【評価】** ＪＲによる地域の魅力の情報発信により、観光客の誘客や地域の活性化が図られたのと併せて、地域の魅力の掘り起こしや観光ボランティアガイド等の育成にもつながった。 **【課題】** コースのリニューアルや他団体の参画により、新たな地域の魅力の掘り起こしや街なかの観光振興を図っていく必要がある。
	2．観光ホームページの再構築	**1．観光ホームページ整備事業**	一関市観光ホームページ「いち旅！」と、一関観光協会ホームページ「いちのせき観光ガイド」との整合性を図り、情報の更新、管理、共有の体制を整え、利用者の視点に立った観光ホームページの運営を図った。 また、平成25年度には「いち旅！」をリニューアルして「いちのせき観光ガイド」を統合し、より一体的な情報発信体制の整備に努めるとともに、利用者が利用しやすい環境づくりに努めた。 【ホームページアクセス件数】 ・平成24年度　86,781件 ・平成25年度　169,184件 ・平成26年度　254,355件 ・平成27年度　474,117件 ・平成28年度　411,789件（平成29年1月末現在）	**【評価】** 市と観光協会各々のホームページを統合したことにより、一関市として一体的な情報発信を行うことができた。 また、ホームページにおいては一関市内全てを網羅する形で情報掲載を行うとともに、市内におけるモデルルートを設定し公開するなど、積極的な情報発信を行うことができている。 ホームページからの「お問い合わせ」も増えてきており、アクセス件数が年々多くなってきていることを実感している。 **【課題】** 今後は、外国人観光客をターゲットとしての多言語化を図る必要がある。

基本方針	重点的取り組み	事業名	事業実績【平成24～28年度】	【評価】および【課題】
	3.「食」をテーマとした情報発信の強化	1．食と観光ＰＲ事業	歴史と伝統ある「もち食文化」の魅力の再認識と餅に触れる機会の拡大を目指し、情報発信と伝承活動への支援を行った。 平成25年12月、一関のもち文化を含む「和食：日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録決定されたことから記念事業を行った。 平成28年11月、農林水産省「食と農の景勝地」に認定されたことから、認定に伴うＰＲ及び各種事業を行った。 【平成25年度】 ・イベント来場者への紅白餅の配布 なのはなプラザオープンイベント、仙台・宮城ＤＣ一ノ関駅でのお出迎えイベント、全国地ビールフェスティバル前夜祭開会式 ・餅つき隊によるつきたて餅の振舞いと来場者の餅つき体験 東北自動車道長者原サービスエリア「南いわてキャンペーン」、サイクル・エイド・ジャパン、バルーンお披露目式、国学院大学「ホーム・カミングデー」 ・「和食」無形文化遺産登録記念事業 一ノ関駅前での餅つき振舞い、もち食文化公開講座（３回）、いわて銀河プラザ「一関フェア」での餅配り、「和食」啓発のぼり掲出、もち料理レプリカ展示 【平成26年度】 ・平泉世界遺産登録３周年記念イベント 一ノ関駅新幹線改札口前での餅つき振舞 【平成27年度】 ・ミラノ国際博覧会における餅つきパフォーマンスの実施 ・イベントにおける餅つきパフォーマンスの実施 【平成28年度】 ・「もち食文化」の伝承活動の実施 東山小学校でのもち本膳体験の実施 もちマイスター検定の実施 ・農林水産省「食の農の景勝地」認定に伴うＰＲ及び各種事業の実施 懸垂幕、のぼり旗の掲出 「食と農の景勝地」推進協議会の有識者派遣による講演会の実施 「食と農の景勝地」推進協議会主催による全国大会（徳島県　にし阿波地域）への参加 「食と農の景勝地」推進協議会主催による海外ＰＲ（マレーシア）への参加	【評価】 もち食推進会議等によるこれまでの根強い活動等と相まって、平成25年12月に「和食：日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録が決定、平成28年11月に農林水産省の「食と農の景勝地」に認定されたことにより、徐々に市民の「もち食文化」に関する関心が深まってきている。 また、「全国ご当地もちサミット」をはじめ、「わんこもち大会」や「もちバイキング」等、市民や飲食店等による「もち」を利用したイベント等も増えてきている。 各種行事等においては、餅つき振舞い隊への出演依頼が頻繁にあり、国内のみならず、国外へも「一関のもち」を大いにPRしている。 これらのほか、「もち」の学校給食への導入や「もちマイスター検定」の実施、「もち本膳体験」など、もち食推進会議が中心となり、「もち食文化」の伝承活動に努めており、一定の成果が見られる。 【課題】 「もちのブランド化」構築を目指しており、引き続き関係機関との研究が必要である。また、もちに関する団体の一体的な機運の醸成を更に図る必要がある。「食と農の景勝地」の認定により、当該取組計画において、今後の当面のターゲットとして位置付けている台湾人の誘客及び受入れ体制の整備をについて図っていく必要がある。
		2．飲食店等における地域の食材や食文化の活用促進	地場産品を使った料理、当地方ならではの特徴的な食文化の提供を行うための環境整備に努めた。特にも当地方の食文化として特徴的なもち料理について情報発信を強化した。 ・一関・平泉もち街道の会 地域に伝わる「もち文化」を通して、おもてなしをするという取り組みに賛同した店舗（平成25年度現在30店舗）の集まった団体への活動支援を行った。 ・一関もち食推進会議 学校給食でのもち食提供、もち食商品化のための研究、もちサミットの開催、和食の世界無形文化遺産登録プロジェクトへの参画、農林水産省「食と農の景勝地」への取組みなど、活動の支援を行った。 ・全国地ビールフェスティバルin一関 地ビールフェスティバルにおいて地元野菜を提供し、野菜産地のＰＲを行った。	【評価】 「一関に来たら餅を食べたい」という観光客が増えてきている。また、市内のもち食の提供店舗等においても、これまで以上にもち料理の提供についての取組みが見られる。 また、地ビールフェスティバル、もちサミット等においては、地域の食材を使った料理を提供していただいている。 【課題】 観光客が、一関の食文化である餅をどこで食べられるのか等の情報がまだまだ不足している。パンフレット等を活用しPRを行うとともに、もち食の提供店舗等と連携しながら情報発信に努めていくことが必要である。 また、もち食について、引き続きもち食商品化のための研究が必要である。
		3．いわてまるごと肉フェスタ負担金	岩手県南圏域の多彩な食肉文化を活かした食イベントの実施により、『食』からの情報発信による圏域の魅力を高め、県内外からの観光客等の誘客を促進することを目的として開催されるイベントへ参画し、一関の情報発信に努めた。 〇事業実績 いわてまるごと肉フェスタ ・平成25年度　期　日　９月28日～29日 場　所　歴史公園えさし藤原の郷 来場者数　約11,000人 ・平成26年度　期　日　９月20日、21日、23日（３日間） 場　所　北上総合運動公園 来場者数　31,814人 ・平成27年度　期　日　10月3日、4日（2日間） 場　所　北上総合運動公園 来場者数　25,549人 ※平成27年度をもって事業終了	【評価】 岩手県南域の銘柄牛が一堂に会し、安価に味わえることで、年々来場者数が伸びていた。また、アジアマスターズ陸上やテクノメッセなどとの共催により、地元銘柄牛肉のＰＲにもつながり、事業目的である「食からの情報発信」が促進された。 【課題】 県南広域振興局と管内の市町が協力して開催していたが、銘柄牛の生産がない、または開催にふさわしい会場の確保ができない市町もあり、その事業展開に限界があった。

基本方針	重点的取り組み	事業名	事業実績【平成24～28年度】	【評価】および【課題】
	３．「食」をテーマとした情報発信の強化	４．県際連携による「食」イベントでの情報発信	既存の行政区域の枠を超え近隣市町村等との連携を図り、「食」のイベントへ相互に参加し情報発信を行った。 【参加いただいたイベント】 ・日本一のもちつき大会（登米市） ・一関地方産業まつり商工祭（三春町、登米市、栗原市） ・全国わんこもち大会（登米市） ・せんまや夜市（気仙沼市、大船渡市） ・せんまや気仙沼街道まつり（気仙沼市） ・室根産業まつり（気仙沼市） ・室根高原牧場まつり（気仙沼市、大槌町、南三陸町） 【参加したイベント】 ・日本一はっとフェスティバル（登米市） ・栗原もってけ市（栗原市） ・栗原市民まつり（栗原市） ・奥州市水沢産業まつり（奥州市） ・平泉福興祭（平泉町） ・伊達な杜仙台（仙台市） ・仙台国際ハーフマラソン（仙台市） ・青葉まつり（仙台市） ・気仙沼市産業まつり（気仙沼市）	【評価】 「食」を通して近隣市町村等との連携を図ることができ、大いに「いちのせき」をPRすることができた。 【課題】 参加いただくイベント、参加するイベントについて、固定化することなく、今後様々なイベントを通して情報発信していくことが必要と思われる。"
	４．特色あるイベント情報の全国発信	１．全国地ビールフェスティバル事業	地ビールの普及を図るとともに本市のＰＲを行い、関連産業の発展と地域の振興及び活性化に資することを目的として、一関文化センター前広場を会場に開催し、全国に向けて誘客とイベント情報の発信に努めた。 ・平成24年度　第15回全国地ビールフェスティバルin一関 期　日　８月24日～26日 出店者　ビール販売72社、おつまみ出店者　25団体 販売量　8,780㍑（来場者17,560人） いちのせき地ビールストリート 期　日　７月20日～８月30日　　参加店　20店舗 ・平成25年度　第16回全国地ビールフェスティバルin一関 期　日　８月23日～25日 出店者　ビール販売63社、おつまみ出店者　23団体 販売量　8,590㍑（来場者17,180人） いちのせき地ビールストリート 期　日　７月19日～８月25日　　参加店　21店舗 ・平成26年度　第17回全国地ビールフェスティバルin一関 期　日　８月22日～24日 出店者　ビール販売　74社、おつまみ出店者　32団体 販売量　12,447㍑（来場者18,200人） いちのせき地ビールストリート 期　日　７月18日～８月24日　　参加店　19店舗 ・平成27年度　第18回全国地ビールフェスティバルin一関 期　日　8月28日～30日 出店者　ビール販売　84社、おつまみ出店者　32団体 販売量　13,495㍑（来場者29,376人） いちのせき地ビールストリート 期　日　8月10日～8月30日　　参加店　20店舗 ・平成28年度　第19回全国地ビールフェスティバルin一関 期　日　8月19日～20日 出店者　ビール販売　81社、おつまみ出店者　32団体 販売量　12,774㍑（来場者29,894人） いちのせき地ビールストリート 期　日　8月1日～8月21日　　参加店　20店舗	【評価】 全国各地で開催されるビールイベントの中でも、近年特に注目度が高くなっている。本イベントを通して関係自治体の交流や地場産品のＰＲが活発に行われており、一関市を代表するイベントに成長した。 平成28年には、日本経済新聞「日経プラス１」紙面にて全国１位のイベントに選出され、さらに注目を集めている。 【課題】 家族連れが増えてきており、周辺駐車場の不足が目立っている。またイベント開催期間中開館している一関図書館の利用者からも駐車場が不足していることへの苦情が出ている。また、おつまみ出店希望者が多くあるが、会場スペースの関係上、増やすことが出来ない状況にある。

基本方針	重点的取り組み	事業名	事業実績【平成24～28年度】	【評価】および【課題】
	4．特色あるイベント情報の全国発信	2．一関・平泉バルーンフェスティバル事業	熱気球大会を開催することにより、悠久の歴史、文化と豊かな自然に恵まれた一関・平泉地域の魅力を全国に発信し、社会的、文化的、人的交流を通じ、まちづくりや地域の振興及び活性化に資することを目的として開催するなど、全国に向けて誘客とイベント情報の発信に努めた。 また、平成27年度から国内最高峰の熱気球競技会である「熱気球ホンダグランプリ（第３戦）」に組み込まれての開催となり、平成28年度には観客数が過去最高の８万人となり、観光客誘客や交流人口の拡大が図られた。 ・平成24年度　一関・平泉バルーンフェスティバル2012 期　　日　10月20日～21日 場　　所　一関遊水地記念緑地公園多目的広場 参加気球　17機（競技気球13機、オフィシャル気球４機） 観 客 数　約13,000人 ・平成25年度　一関・平泉バルーンフェスティバル2013 期　　日　10月12日～14日 場　　所　一関遊水地記念緑地公園多目的広場 参加気球　15機（競技気球10機、オフィシャル気球５機） 観 客 数　約26,000人 市のバルーンを１機購入「黄金の國　一関・平泉号」（H25.7） ・平成26年度　一関・平泉バルーンフェスティバル2014 期　　日　10月18日～19日 場　　所　一関水辺プラザ 参加気球　14機（競技気球10機、オフィシャル気球４機） 観 客 数　約20,000人 体験搭乗会　６回開催（５月～11月）　合計418人搭乗 ・平成27年度　2015熱気球ホンダグランプリ第３戦　一関・平泉バルーンフェスティバル2015 期　　日　10月10日～12日 場　　所　一関水辺プラザ 参加気球　30機（競技気球24機、オフィシャル気球６機） 観 客 数　約70,000人 体験搭乗会　６回開催（５月～11月）　合計529人搭乗 ・平成28年度　2016熱気球ホンダグランプリ第４戦　一関・平泉バルーンフェスティバル2016 期　　日　10月14日～16日 場　　所　一関水辺プラザ 参加気球　32機（競技気球26機、オフィシャル気球６機） 観 客 数　80,000人 体験搭乗会　市内外16回開催（４月～11月）　合計1,301人搭乗	【評価】 バルーンフェスティバルは、熱気球の競技だけでなく熱気球係留や熱気球教室、夜間係留など観客参加型の熱気球イベントとして、観光客誘客の促進化や地域活性化が図られた。また、市が所有する熱気球を新たな観光資源に位置付け、友好都市等での熱気球係留実施により、広域観光の推進が図られた。 平成27年度から本田技研工業㈱などがスポンサーとなり行われている国内最高峰の熱気球競技大会である「熱気球ホンダグランプリ」（全５戦）に組み込まれての開催となり、平成29年度も継続開催が決まったことから、更なる観光客誘客の促進化や地域活性化が期待できる。 【課題】 バルーンフェスティバル開催から５年しかたっておらず、市民への熱気球に対する興味関心を深める普及啓発を重点化していく必要がある。 また、平成28年２月に市民組織で設立された、黄金の國一関・平泉バルーンクラブと連携し、喫緊の課題となっている熱気球パイロット養成に力を入れていく必要がある。 更に大会自体が天候に左右されるため、イベント内容に工夫が必要である。
		3．ご当地もちサミット事業	一関の伝統食材である「もち」を活用したグルメイベントを開催し、一関のもちブランド化を目指して「もちの聖地いちのせき」を全国に向けてＰＲするとともに、交流人口を拡大させ地域経済の活性化を図ることを目的として、一関市総合体育館周辺特設会場で開催し、全国に向けて誘客とイベント情報の発信に努めた。 平成28年度から、街なかの賑わい創出とＪＲ利用による遠方からの誘客を目指し、会場を一関文化センターに変更し、初めての単独開催で実施した。 ・平成24年度　第１回　中東北ご当地もちサミット2012in一関 期　　日　10月20日～21日 出店店舗　16団体 販売職数　13,600食 入場者数　約39,000人（商工祭、住宅祭、文化祭の入場者を含む） ・平成25年度　第２回　全国ご当地もちサミット2013in一関 期　　日　10月19日～20日 出店店舗　24団体 販売職数　28,000食 入場者数　約32,000人（商工祭、住宅祭、文化祭の入場者を含む） ・平成26年度　第３回　全国ご当地もちサミット2014in一関 期　　日　10月18日～19日 出店店舗　24団体 販売職数　26,000食 入場者数　約32,000人（商工祭の入場者を含む） ・平成27年度　第４回　全国ご当地もちサミット2015in一関 期　　日　10月10日～11日 出店店舗　24団体 販売職数　22,000食 ・平成28年度　第５回　全国ご当地もちサミット2016in一関 期　　日　11月5日～6日 出店店舗　26団体 販売職数　24,000食	【評価】 H24年度から始まった同事業も５回を数え、徐々に浸透してきており、出店者も全国から集まってくるようになってきており、出店者数はH28年度が最高（26団体）となった。 また、情報誌への掲載やメディアで紹介されることも増えてきており、「いちのせきのもち」を全国にPRできる大きな役割を担う事業となってきている。 【課題】 市内の数店のもち店舗が事情により出店できない状況が続いている。 「全国ご当地もちサミット」と銘打っていても、地域経済の活性化、一関のもちブランド化を目指している事業であることから、市内のもち店舗も積極的に出店できるように配慮していく必要がある。
		4．その他の地域伝統行事	地域の伝統行事として知られる、大東大原水かけ祭り、室根神社特別大祭、かわさき夏まつり花火大会、藤沢野焼祭等について、首都圏等から誘客を促進するイベントとして定着するよう、誘客とイベント情報の発信に努めた。 ・東京スカイツリー観光ＰＲ　平成25年３月11日～17日 パンフレット・ポスターの設置、観光イメージＤＶＤの上映、パンフレット・ノベルティーの配布（4,200部）、アンケートの実施（421件）	【評価】 ホームページや観光PR等で積極的な情報発信を行った。 【課題】 地域の伝統行事は、他には例がない、一関市の独自かつ貴重なものであることから、誘客促進の大きな素材である。 支所担当課とも連携し、ホームページやメディア、その他の手段等で積極的かつ継続的にPRを実施していく必要がある。

基本方針	重点的取り組み	事業名	事業実績【平成24～28年度】	【評価】および【課題】
	5．体験交流型観光の推進	**1．学習型ツアー広報宣伝事業**	教育旅行や社会人研修旅行等の団体旅行の誘致と平泉から一関各地域への観光ルートを定着させるとともに、沿岸地域へのルートが定着するよう事業実施を図った。 ・平成25年度　学習型ツアー広報宣伝パンフレット「教育旅行のご案内」の作成　3,000部 ・伊達な広域観光推進協議会等広域連携による教育旅行の誘致活動	**【評価】** 教育旅行においては、体験プログラムのニーズが高まっており、体験プログラムのメニューを掲載した「教育旅行のご案内」は、教育旅行の誘致に効果的なツールとなっている。 **【課題】** 教育旅行の実施場所は、旅行実施の１、２年前に決まることが通例であり、教育旅行の誘致にあたっては、継続的な活動が必要である。
		2．ニューツーリズムの促進	地域資源を活かした教育旅行及び着地型観光による交流人口の拡大を目的として事業実施を図った。 ・いちのせきニューツーリズム協議会との連携による農家民泊、教育旅行等の受入 ・岩手県スポーツツーリズム推進協議会への参画による体験交流型観光の推進	**【評価】** 教育旅行においては、体験プログラムのニーズが高まっており、当地域で実施されている農家民泊は、大きな強みとなっている。 **【課題】** 今後ますます訪日外国人旅行者の増加が見込まれており、インバウンドに対応したニューツーリズムの推進が求められる。
	6．須川・真湯・祭畤地区のブランド化の推進	**1．須川・真湯・祭畤地区ブランド化推進事業**	須川・真湯・祭畤地区について、震災等で落ち込んだ観光客の回復を図るため、重点的に情報の発信に努めた。 ・平成25年度　国道342号滞在型パンフレット　18,000部 ・平成27年度　栗駒焼石ほっとライン開通による新たな観光ルートの周知	**【評価】** 震災当時から比べて観光客は回復しているが、震災前の観光客数と大きな開きがあり、伸び悩んでいる。 **【課題】** 滞在パンフレット、ホームページ等による情報発信にも限界があり、一関温泉郷協議会との更なる連携による取組が必要である。
		2．真湯温泉センター整備事業	真湯・祭畤地区活性化基本構想に基づき、真湯温泉センター温泉交流館、ジャブジャブ広場、コテージ等の整備を行い、自然や滞在型観光施設を生かした憩いの場の提供と誘客を図った。 ・平成24年度　真湯新源泉さく井業務委託（真湯３号） 真湯温泉センター揚湯ポンプ等設置工事（真湯３号） 真湯温泉センター雪害対策工事 真湯温泉センター駐車場連絡通路整備工事 ・平成25年度　真湯温泉センター遊具更新工事（ジャブジャブ広場遊具） 真湯温泉センターコテージ柵修繕工事 ・平成26年度　真湯温泉センター改修工事 真湯温泉センター源泉揚湯ポンプ更新工事（鹿の湯） ・平成27年度　真湯温泉センター遊具等更新工事 真湯温泉センターコテージ暖房機交換工事 ・平成28年度　真湯温泉センター源泉揚湯ポンプ更新工事（真湯３号）	**【評価】** 利用客が年々増加傾向にある。 ・H24年度　26,163名 ・H25年度　28,238名 ・H26年度　25,819名 ・H27年度　30,641名 ・H28年度　28,556名（H29.1月末現在） **【課題】** 老朽化等により施設内の設備の修繕（改修）が必要である。また、屋外の遊具が雪害により毎年修繕が必要である。
3．観光に関する受け入れ態勢の整備				
	1．市民主体のおもてなし意識の醸成	**1．地域観光案内人スキルアップ研修事業**	国内外から訪れる観光客に対して、「一関に来て良かった、また来てみたい」という印象を持っていただけるよう、観光業従事者一人一人が心を配り、温かいおもてなしが出来るようになることを目的として、観光案内人スキルアップセミナーを開催した。 また、一関地域の偉人・賢人、歴史、史跡等を掲載したガイドブックを作製し、セミナーのテキストにするなど観光業従事者へ配布した。 ・平成25年度　地域観光案内人スキルアップセミナー 期　　日　平成26年２月12日～26日　３回コース　受講者数　40人 おもてなし！観光案内人ガイドブック　1,000部 ・平成26年度　外国人観光客おもてなしセミナー 期　　日　平成27年２月18日 受講者数37人 ・平成28年度　観光客おもてなし向上セミナー 期　　日　平成29年２月16日 受講者数　26人	**【評価】** 観光案内人スキルアップセミナーの開催とおもてなし観光案内人ガイドブックの作成により、国内外から訪れる観光客に対して、「一関に来て良かった、また来てみたい」という印象を持っていただけるよう、観光業従事者一人一人が心を配り、温かいおもてなしが出来るような観光案内人の標準化を図ることができた。 **【課題】** 今後は観光業従事者のみならず、広く多くの市民が地域を知り、おもてなしの意識を持って観光客に対応できるような取組が必要である。また、観光業従事者については、今後増加が期待される訪日外国人観光客への対応の取組を検討する必要がある。

基本方針	重点的取り組み	事業名	事業実績【平成24～28年度】	【評価】および【課題】
	2．ボランティアガイドの育成	1．観光ボランティアガイド団体への運営支援	一関の観光の魅力を伝える役割を担うガイドの育成と確保のため、旧沼田家武家住宅や千厩酒のくら交流施設などで活動しているボランティアガイド団体に支援を行った。 ・いわいの里ガイドの会（旧沼田家武家住宅を中心に活動） ・蔵サポーターの会（千厩酒のくら交流施設を中心に活動） ・観光交流ネット千厩（地域資源を活用したツアーの企画などを中心に活動。平成25年度新規）	【評価】 ■いわいの里ガイドの会：平成23年に平泉の文化遺産が世界遺産登録され、平成24年はいわてＤＣ・東北観光博、平成25年には仙台・宮城ＤＣが行われた。一ノ関駅構内や骨寺村荘園遺跡、旧沼田家武家住宅での観光案内業務は訪れるお客様の印象を直接的に左右するものでありいわいの里ガイドの会へ毎年支援を行い、高評価を得ている。そのほか、会では「語り部養成講座」で昔話や伝説などを伝えられるような人材育成や、新たな観光資源の発掘に積極的に取り組んでいる。 ■蔵サポーターの会：定期的な清掃活動や酒のくら(玉の春)にまつわる踊りの伝承活動にも取り組んでおり、ガイドの際には伝統料理のお振舞いをするなど工夫しお客様の心に残るガイドを行っている。 ■観光交流ネット千厩：新たな地域資源を掘り起こしＰＲを行っており、動画撮影や地元在住の外国の方の力を借りるなど、他団体とは違ったＰＲを行っている。 【課題】 ■いわいの里ガイドの会：会員の確保と自主運営が課題である。また、本来の目的である一関市内観光ガイドの要請はあまり多くないが、平泉の世界遺産登録後は平泉のガイドと市内の観光地を併せてのガイドの要請が多くなってきているので、今後はいわいの里ガイドの会が近年観光資源として取り組んでいる芭蕉の道が新たな観光資源として定着し、観光ガイドの要請の増加へ繋げることが課題である。 ■蔵サポーターの会：活動を継続していくためにも、幅広い年齢層での観光ガイド養成が課題である。 ■観光交流ネット千厩：会員の中でも実際に活動している人が少なく、観光ガイドの人材育成が課題である。
		2．一関市観光ガイド養成講座開催事業	学習意識の高い観光客が増え、観光ガイドを活用した旅行の需要が高まっていることから専門性の高い養成講座を隔年に開催し、ボランティアガイドの養成に努めた。 ・平成24年度　観光ボランティアガイド養成講座 期　日　平成24年７月19日～11月22日　10回コース 受講者数　19人 ・平成26年度　観光ボランティアガイド養成講座 期　日　平成26年７月10日～11月20日　10回コース 受講者数　13人 ・平成28年度　観光ボランティアガイド養成講座 期　日　平成28年７月12日～10月４日　７回コース 受講者数　12人	【評価】 平成23年に平泉の文化遺産が世界遺産登録され、平成24年はいわてＤＣ・東北観光博、平成25年には仙台・宮城ＤＣが行われた。一ノ関駅構内や骨寺村荘園遺跡、旧沼田家武家住宅での観光案内業務は訪れるお客様の印象を直接的に左右するものであるが、これまでの実績があるいわいの里ガイドの会の活躍には期待したい。 【課題】 会が近年盛んに観光資源として取り組んでいる芭蕉の道が、新たな観光資源として定着する仕組みを作ると共に、観光ボランティアガイド養成により会員数の増加につながることが必要である。
	3．看板などの観光案内機能の充実	1．道路案内標識・観光案内看板設置事業	大型バスや自家用車等を利用した観光客の動線に配慮し、外国語表記による観光案内看板の設置を図った。 ・平成25年度　大型看板２箇所設置　東山地域 ・平成26年度　大型看板２箇所設置　東山地域 ・平成27年度　看板20箇所設置　東山地域	【評価】 大型バスや自家用車等を利用した観光客の動線に配慮し、外国語表記による観光案内看板の設置をすることで外国人への観光案内体制への標準的な整備を図った。 【課題】 今後は定期的なメンテナンスが必要である。
		2．一ノ関駅構内臨時観光案内所設置事業	平泉の玄関口として案内機能の強化のため、一ノ関駅構内に臨時案内所を４月中旬から11月上旬まで設置し旅行者の対応にあたった。 ・案内件数　（年度）H24 5,895件、H25　5,388件、H26 5,453件、H27 5,178件 ・委託先　いわいの里ガイドの会	【評価】 一ノ関駅構内に臨時案内所を４月中旬から11月上旬まで設置することで、平泉の玄関口として案内機能の強化を図り、各種観光パンフレットを配布するとともに旅行者への細やかな観光案内をすることができた。また、駅構内に設置することで、旅行者の時間と手間を大幅に削減することができた。 【課題】 今後も継続的な取組が必要である。

基本方針	重点的取り組み	事業名	事業実績【平成24～28年度】	【評価】および【課題】
	3．看板などの観光案内機能の充実	**3．外国人に対する観光案内業務委託事業**	一関観光案内所に外国語に堪能な職員を２名配置し、訪日外国人旅行者に対してきめ細やかな対応が行えるよう観光案内窓口の体制を整えた。 ・案内件数 平成24年度　1,334件、平成25年度　1,226件、平成26年度　1,112件、平成27年度　1,272件 平成28年度　1,311件（平成29年1月31日現在） ・委託先　一般社団法人一関観光協会	**【評価】** 隣接する世界遺産「平泉」を含む岩手県南の玄関口としてのほか、中東北の中心都市として、多くの観光客が当市を訪れている中、外国人案内職員を２名配置することで、日常的な観光案内の体制を確立することができた。 **【課題】** 当初、英語と中国語のできる職員を各１名配置していたが、現在は英語のできる職員が２名となっている。台湾からの観光客が多いことから、中国語のできる職員の配置を行う必要がある。
	4．広域観光ルートの開発	**1．広域観光ルート開発事業**	地域の観光ルートづくりを推進するため、行政区域の枠を超え広域的に自治体が連携することにより事業展開を図った。 ・伊達な広域観光推進協議会 平成20年度から宮城県、岩手県、山形県内各自治体との連携により広域観光に取り組んだ。 ・イチ、ニのサン！元気な東北発信事業 平成23年度から二戸市、青森県三沢市と連携、平成27年度からは福島県二本松市、福島県三春町と連携し、域内での観光交流促進に取り組んだ。 市長対談会の開催（H23　一関市内で開催）、熱気球係留体験搭乗会の実施、一関地方産業まつり（商工祭）への出展、観光ＰＲの実施等 ・ゆっくりひとめぐり栗駒山麓連絡会議 平成23年度から湯沢市、栗原市、一関市、東成瀬村と連携し、栗駒山（須川岳）を中心とした地域のＰＲに努めた。 シンポジウムの開催、写真コンテストの開催、スタンプラリーの実施等 平成28年度から新たに創設された８月11日の「山の日」には４市連携による清掃登山を実施した。 ・世界遺産連携推進実行委員会 平成23年度から一関市、平泉町、奥州市、岩手県県南広域振興局、各市町商工会、観光協会が連携し、観光ＰＲを行った。 ・その他の組織への加盟により広域観光の推進を図った。 岩手県観光協会、黄金王国推進委員会（平成27年度解散）、岩手・宮城県際広域観光推進研究会	**【評価】** 構成自治体間の積極的な連携協力により、順調に推移してきており、広域観光ルートの開発に取り組んでいる。 **【課題】** インバウンド対策も踏まえた連携（内容精査）が必要と思われる。
	5．二次交通網の整備推進	**1．猊鼻渓・骨寺荘園地区への誘客**	平成20年度から路線バスが運行されていない平泉駅～げいび渓間について、４月上旬から11月上旬の間一日８便（４往復）のバスを運行させた。平成25年度には、平泉町民の利便性向上を図るため、平泉町長島地内にバス停留所の増設を図った。 また、平成22年度から平成25年度まで路線バスの便数が少ない骨寺荘園地区への誘客のため、レンタカー利用者への特産品プレゼントを行い、誘客を図った。（平成26年度以降は廃止。） ・バス乗客数 H24年度：2,292人、H25年度：1,776人、H26年度：1,862人、H27年度：2,350人、H28年度：2,630人 ・レンタカー利用者数 H24年度：24人、H25年度：22人	**【評価】** 平泉を訪れた観光客が、げいび渓や骨寺村荘園遺跡などの当市の観光地を廻ることにより、滞在時間の増大が見込まれ、観光産業ひいては地域産業の活性化が図られた。 **【課題】** 東日本大震災により落ち込んだ観光客の呼び戻しと平泉の世界遺産を訪れている観光客の市内への誘客を図るため、二次交通網の整備が必要である。
	6．国際会議等誘致方策の検討	**1．外国人来訪者の受入態勢の検討**	国際リニアコライダー（ＩＬＣ）の国内候補地が北上高地に決定され、このプロジェクトを「一関発展の基軸」と位置付け、国際化に対応したまちづくりについての検討や、訪日外国人観光客（インバウンド）の誘客促進を図るセミナーを行った。 また、平成28年度は、国の東北観光復興対策交付金を活用し、４市町（栗原市、登米市、当市、平泉町）による、多言語対応観光ブック・音声ガイドペン導入事業を実施し、インバウンドの受入環境整備を図った。 ・平成25年度　ＩＬＣ計画に関する情報交換会 期　日　５月９日 対象者　ＪＲびゅうプラザ一ノ関駅、東武トラベル一関支店、ＪＴＢ東北奥州支店、いわいの里ガイドの会、蔵サポーターの会、観光交流ネット千厩、一関商工会議所、一関観光協会、一関市・平成26年度　外国人観光客おもてなしセミナー 期　日　２月18日 対象者　一関商工会議所会員、一関観光協会会員 ・平成28年度　多言語対応観光ブック・音声ガイドペン導入事業 多言語対応観光ガイドブック5,000部、音声ガイドペン100本を整備 翻訳言語：英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語	**【評価】** 関係団体と連携して、世界中から訪れる研究者等とその家族が安心して観光できる環境の整備を進めていくために必要な地域の国際化等の取組方向性に係る情報共有が図られた。 また、世界遺産「平泉」の玄関口として、訪日外国人観光客（インバウンド）へのおもてなしの心構え、対応ノウハウを研修し、受入態勢の向上が図られた。 **【課題】** 観光案内板や観光施設等における多言語対応など、国際化に対応した環境整備を更に進めていく必要がある。 また、訪日外国人観光客（インバウンド）の更なる誘客を図るため、外国人おもてなし人材の育成や多言語対応の観光ガイドブック等の作製、ＨＰ等による情報発信の強化を進めていく必要がある。

基本方針	重点的取り組み	事業名	事業実績【平成24～28年度】	【評価】および【課題】
	6．国際会議等誘致方策の検討	2．ＩＬＣ庁内連絡会議	国際リニアコライダー（ＩＬＣ）の推進に関し協議するための庁内組織であるＩＬＣ庁内連絡会議に参画し、まちづくり、インフラ整備、生活環境、研究環境などの調査検討を行った。 ○まちづくり・インフラ整備部会⇔まちづくりワーキンググループ、インフラ整備ワーキンググループ ○生活環境・研究環境部会⇔生活支援ワーキンググループ、育児・教育・医療ワーキンググループ	【評価】 ＩＬＣ計画の動向を把握することで、ＩＬＣの実現に向けた観光振興面での取組の方向性について、関係団体との情報共有が図られた。 【課題】 市関係部署や関係団体と連携し、世界中から訪れる研究者等が安心して観光ができるよう、具体的な国際化の推進や、市内外の情報発信、情報通信基盤の整備への調査検討を進めていく必要がある。
4．広域連携の推進				
	1．広域観光を進めるための関係市町村との連携促進	1．大型観光キャンペーン事業	当市への誘客の拡大を図るため、大型観光キャンペーン協議会に加盟・連携することよって事業の推進に努めた。 ・東北観光博の開催による「旅のサロン」開設への支援 ・ＪＲデスティネーションキャンペーンを推進するための組織への加入 ●いわてデスティネーションキャンペーン推進協議会 （いわて観光キャンペーン推進協議会（H25.12.11改組）） ■いわてデスティネーションキャンペーン（平成24年４月１日～６月30日） ○特典付きパンフレット（クーポンブック）作成　10,000部（一関市3/4、平泉町1/4負担による共同作成） 岩手県アンテナショップ（銀河プラザ）、加盟店舗及び観光協会等へ配架 ○いわてＤＣ一ノ関駅お出迎え・お見送りイベントの実施／一ノ関駅 ・観光ＰＲ（パンフレット配布，ノベルティプレゼント）、横断幕・太鼓、郷土芸能、餅つき等イベント ●仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会 ■仙台・宮城デスティネーションキャンペーン（平成25年４月１日～６月30日） ⑴宣伝・広報等 ①ガイドブック　100万部 ②ポスター ５連ポスター（B1）2,000枚×５種類、５連ポスター（B2）５種類、メインポスター1,300枚、各エリア1,000枚、イベントポスター（B3）457枚×４種類、イベントポスター（B3）457枚×20種類 ③ミニイベントカレンダー　10万部 ④むすび丸新聞　河北新報朝刊へ月１回掲載　計５回（３月から７月） ⑵誘客対策事業 ①むすび丸しゃもじ温泉卓球大会（6/2、6/16、6/22）　計179名参加 ②伊達な杜舞台（4/13・14）　来場者数65,000人 ③プロスポーツとのイベントタイアップ事業 ・東北楽天ゴールデンイーグルス「仙台・宮城デスティネーションキャンペーンデー」(4/4) ・ベガルタ仙台「笑顔咲くたび伊達な旅マッチデー」(5/12) ・仙台89ERS「仙台89ERS冠デー」(3/31) ④宿泊予約サイトへの観光情報の掲出 ⑤イベント列車お見送り　　計136本（うち、対応可能なものについて実施） ⑶受入態勢整備事業 ①フラワースタンプラリー（４月～６月）　チェックポイント121箇所、応募総数10,912通 ②伊達なバス旅の運行（４月～６月）　23コース48日運行、利用人数1,688名 ③定期観光バス「松島・平泉号」の運行（4/13～6/23の土日祝日）　計25日、利用人数245名	【評価】 県全体での主要観光地における観光客入込客数は、震災前のH22年度比では4.7%増加している（H26年度実績）（※現在、県で公表している最新の実績はH27年分（暦年）であるため、H26年度実績により比較） 【課題】 平成27年３月に北海道新幹線が開業となったことから、関係団体の連携を密にし、引き続き観光客の周遊を促進する必要がある。 また、インバウンド対策も踏まえた連携（内容精査）が必要と思われる。
		2．在仙一関サポーター事業	一関の産業観光情報を仙台都市圏に発信するとともに、政策提言や情報収集を行うため、仙台市在住の一関市ゆかりの方に在仙一関サポーターを委嘱し、観光情報、イベント情報、ＵＩターン情報、企業・事業所に対する情報の随時発信やポスター・観光パンフレット等を郵送した。 ・平成25年度 在仙一関サポーター会議　平成25年10月24日開催開催 ・平成26年度 在仙一関サポーター会議　平成26年５月22日開催開催 在仙一関サポーター通信　毎月発行 ・平成27年度 在仙一関サポーター会議　平成27年６月１日開催開催 在仙一関サポーター通信　毎月発行 ・平成28年度 在仙一関サポーター会議　平成28年５月31日開催 在仙一関サポーター通信　毎月発行	【評価】 平成25年３月に「一関市在仙一関サポーター設置要綱」を定め、仙台市在住の一関市ゆかりの方を在仙一関サポーターを委嘱した。以降、一関市の産業観光情報を仙台都市圏に発信するとともに政策に対する提言をいただいている。 【課題】 仙台圏観光キャンペーン事業との連携を図り、効率的かつ効果的な事業を行っていく必要がある。

基本方針	重点的取り組み	事業名	事業実績【平成24～28年度】	【評価】および【課題】
	1．広域観光を進めるための関係市町村との連携促進	3．仙台圏観光キャンペーン事業	仙台圏で一関市が実施するイベント・観光等のキャンペーンを行い、一関市への誘客促進に努めた。 ・平成26年度 ３月８～24日　仙台地下鉄へ観光ＰＲの中吊り広告を掲載（温泉郷） ４月16～22日　仙台地下鉄へ観光ＰＲの中吊り広告を掲載（厳美渓、猊鼻渓） 10月８～14日　仙台地下鉄へ観光ＰＲの中吊り広告を掲載（バルーン） ７月26～27日　ＴＢＣ夏まつり（場所：勾当台公園）にて観光ＰＲ ９月６日　ＫＨＢまつり（場所：勾当台公園）にて観光ＰＲ ３月21～22日　仙台クリスロード商店街内「仙台縁日」前にて観光ＰＲ ・平成27年度 ５月23～24日　仙台放送まつり（場所：勾当台公園）にて観光ＰＲ ９月５日　ＫＨＢまつり（場所：勾当台公園）にて観光ＰＲ ・平成28年度 ７月16日　仙台クリスロード商店街内「仙台縁日」前において観光ＰＲ ２月25日　仙台クリスロード商店街内「仙台縁日」前において観光ＰＲ	**【評価】** 人口100万人を擁し、かつ人口移動の多い仙台市でＰＲを実施することで、継続的新規顧客の誘致および獲得したファンの全国拡散を見出すことが期待できる。 **【課題】** 在仙一関サポーターとの連携を図り、効率的かつ効果的な事業を行っていく必要がある。また、限られたスペースの中で、一関市を最大限ＰＲできるよう工夫していく必要がある。
		4．各協議会等への加入	当市の認知度を上げるため積極的なＰＲ活動の展開を図るため、協議会に加盟・連携することによって事業の推進に努めた。 ◇市が主体となって活動しているもの ・伊達な広域観光推進協議会 宮城県：仙台市・気仙沼市・大崎市・塩竈市・松島町・南三陸町 岩手県：一関市・奥州市・平泉町 山形県：最上町 ・いわて観光キャンペーン推進協議会 行政関係　：岩手県、県内全市町村　34団体 団体・企業関係：48団体 賛助会員　：4団体 ・仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会（平成25年度まで正会員、平成26年度から賛助会員） 参　与：宮城県議会・仙台市議会・東北運輸局 民間団体：30団体 民間企業：19団体 自 治 体：宮城県、宮城県市長会・宮城県町村会・35市町村 ・栗駒地域交流促進懇談会 県　：秋田県・岩手県・宮城県 秋田県：東成瀬村 岩手県：一関市・一関警察署、一関観光協会・一関温泉郷協議会、 ＮＰＯ須川の自然を考える会・岩手県交通 宮城県：栗原市・㈱ＪＴＢ ・黄金王国推進委員会（平成27年度解散） 県南部(一関市、奥州市、大船渡市などの自治体、観光協会、観光関連事業者等で構成） ・岩手県内都市観光連絡会議 県内の13市　・北上川流域観光地域づくり協議会 県、市町村等　：11団体 観光協会　：16団体 商工会、商工会議所：10団体 ＮＰＯ関係　：17団体 交通事業者、その他：９団体 ・世界遺産連携推進実行委員会 岩手県：県南広域振興局 市・町：一関市・奥州市・平泉町 観光協会：一関観光協会・奥州市観光物産協会・平泉観光協会 商工会議所等：一関商工会議所・奥州商工会議所・前沢商工会・平泉商工会 ◇県が主体となって活動しているもの ・岩手・宮城県際広域観光推進研究会 県　：岩手県・宮城県 岩手県：一関市・平泉町・大船渡市・陸前高田市・住田町・一関観光協会・大船渡市観光物産協会 宮城県：栗原市・登米市・気仙沼市・南三陸町・栗原市観光物産協会・登米市観光物産協会・ 気仙沼観光コンベンション協会	**【評価】** 構成団体等との協力により積極的なPR活動を実施することができている。 また、他団体との情報交換も行うことができ、貴重な機会となっている。 **【課題】** 連携する関係団体等の数が多く、対応しきれない状況になりつつあることから、効果検証を踏まえて検討を図る必要がある。

基本方針	重点的取り組み	事業名	事業実績【平成24～28年度】	【評価】および【課題】
	2．姉妹都市等との交流の強化	**1．姉妹都市の観光物産展への出展事業**	一関の物産と観光資源等をPRする共に一関市のイメージアップを図るため開催し、地場産品の育成と宣伝、販路拡大に努めた。 姉妹都市や首都圏等で物産と観光展を開催し、特産品・農産物の宣伝販売並びに、観光PRを実施。 ○一関の物産と観光展実施状況 ・平成24年度　一関地域／13回　花泉地域／1回　大東地域／2回　千厩地域／2回　東山／1回　室根／1回 川崎／1回　藤沢／1回　合計　22回 ・平成25年度　一関地域／10回　花泉地域／1回　大東地域／2回　千厩地域／2回　東山／1回　室根／1回 川崎／1回　藤沢／1回　合計　19回 ・平成26年度　一関地域／10回　花泉地域／1回　大東地域／2回　千厩地域／2回　東山／1回　室根／1回 川崎／1回　藤沢／2回　合計　20回 ・平成27年度　一関地域／10回　花泉地域／1回　大東地域／2回　千厩地域／2回　東山／1回　室根／1回 川崎／1回　藤沢／2回　合計　20回 ・平成28年度　一関地域／東京都豊島区（池袋2回、巣鴨3回うち1回は3月18日～20日、大塚1回）、 東京都文京区（東京ドーム）、福島県三春町 花泉地域／東京都江東区（木場公園） 大東地域／東京都千代田区（私学会館）、神奈川県藤沢市（日本大学） 千厩地域／東京都世田谷区（三軒茶屋2回） 東山地域／東京都品川区（武蔵小山商店街） 室根地域／埼玉県吉川市（市民交流センター） 川崎地域／神奈川県川崎市多摩区（生田緑地公園） 藤沢地域／東京都中央区（いわて銀河プラザ1回／2月17日～20日開催予定） 合計　17回	**【評価】** 従来から交流のある都市等と各地域で相互に協力しながら、特産品の販売と観光PRを行う「物産と観光展」を実施することで、開催都市等では知名度が向上しイベント実施後に電話やインターネットでの注文を受けるなど、販売促進に繋がっている。 **【課題】** 合併前の旧市町村（各地域）と開催都市との交流が続いているものであり、固定ファンがいるものの開催地域が限られている。 イベント等における市内全域の物産販売のニーズがあるため、今後検討が必要。なかなか戦略的な販路拡大が図られていない。
	3．広域連携組織への参画	**1．広域連携推進事業**	滞在型観光の促進を図り、地域への集客の増加を図るため、近隣等の市町村と連携し、周辺地域への観光客の誘客、広域周遊型の観光開発に努めた。 ・ゆっくりひとめぐり栗駒山麓連絡会議 秋田県：湯沢市・東成瀬村 宮城県：栗原市 岩手県：一関市 ・イチ、ニのサン！元気な東北発信事業 岩手県：一関市・二戸市 青森県：三沢市 福島県：二本松市、三春町 ・世界遺産連携推進実行委員会 岩手県：県南広域振興局 市・町：一関市・奥州市・平泉町 観光協会：一関観光協会・奥州市観光物産協会・平泉観光協会 商工会議所等：一関商工会議所・奥州商工会議所・前沢商工会・平泉商工会 ・４市町連携事業 一関市、栗原市、登米市、平泉町	**【評価】** 県境を意識しない広域的な観点で観光振興や地域間交流を図りながら、交流人口の拡大と賑わいあふれる観光地づくりに取り組んでいるところである。 **【課題】** 国策と連動して、インバウンド（訪日外国人観光客）の受け入れ体制の整備検討や、インバウンド誘客の促進を図り、インバウンド戦略を検討していく必要がある。

観光振興計画策定の経過

日　付	会　　議　　名	内　　容
平成28年 ７月29日	第１回一関市観光振興計画策定委員会	(1)委員長と副委員長の選出 (2)観光振興計画の策定について (3)策定のスケジュールについて
８月29日	第２回一関市観光振興計画策定委員会	(1)現観光振興計画の評価と課題 (2)今後の計画の方向性
10月25日	第３回一関市観光振興計画策定委員会	(1)一関市観光振興計画の素案について
12月６日	第４回一関市観光振興計画策定委員会	(1)一関市観光振興計画の原案について
12月22日	第１回一関市観光審議会	(1)一関市観光振興計画（原案）の諮問 (2)一関市観光振興計画（原案）について
平成29年 １月11日～ 25日	パブリックコメント	市公式ホームページ、本庁、各支所に備え付けて実施
１月23日	行政課題検討会	(1)一関市観光振興計画（案）の策定状況について
１月24日	一関市議会産業経済常任委員会	(1)一関市観光振興計画（案）の策定状況について
２月５日	第５回一関市観光振興計画策定委員会	(1)一関市観光振興計画（答申案）の検討について
２月22日	第２回一関市観光審議会	(1)一関市観光振興計画（答申案）について (2)一関市観光振興計画（案）の答申

一関市観光振興計画策定委員名簿

	氏　　名	所　属　団　体
委　員　長	小野寺　眞　利	一関商工会議所
副委員長	昆　野　洋　子	蔵サポーターの会
委　　員	市　嶋　　豊	いちのせきニューツーリズム協議会
〃	及　川　　豊	室根総合開発株式会社
〃	大　浪　友　子	一般社団法人一関観光協会
〃	工　藤　明　雄	岩手県県南広域振興局経営企画部
〃	佐　藤　奈保美	一関温泉郷協議会
〃	鈴　木　　中	有限会社げいび観光センター
〃	橋　本　志　津	株式会社アーク
〃	畠　山　博　人	東武トップツアーズ株式会社一関支店
〃	船　生　律　子	いわいの里ガイドの会
〃	小野寺　康　光	一関市商工労働部

一関市観光審議会委員名簿

	氏　　名	所　属　団　体
会　　長	岩　井　確　司	一般社団法人一関観光協会
副　会　長	小野寺　眞　利	一関商工会議所
委　　員	伊　藤　利　幸	岩手県タクシー協会一関支部
〃	伊　藤　　学	岩手県交通株式会社一関営業所
〃	稲　垣　智　雄	一関温泉郷協議会
〃	遠　藤　陽　子	岩手県県南広域振興局経営企画部
〃	細　川　　斉	東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社一ノ関駅
〃	千　葉　登喜代	いわいの里ガイドの会
〃	永　澤　由　利	千厩町まちづくり団体連合会
〃	水　谷　みさえ	一関商工会議所女性会

一関市観光振興計画

（平成29～33年度）

発行：一関市
編集：商工労働部商業観光課

平成29年３月

〒021-8501　岩手県一関市竹山町７番２号
TEL 0191-21-2111㈹　FAX 0191-31-3037
http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/
http://www.city.ichitabi.jp/
E-mail:shokan@city.ichinoseki.iwate.jp

一関市